

平成28年度

# ウチナーンチュ子弟等留学生修了報告書



沖 縄 県

## はじめに

ウチナーンチュ子弟等留学生受入事業は、海外に在住する沖縄県出身移住者子弟や本県と縁が深いアジア諸国等から優秀な人物を県内の大学や企業、伝統芸能修得機関（以下「大学等」という。）等で修学・研修させ、沖縄の歴史・文化・習慣の理解や、企業での実務経験、県民との交流を通して、将来的に本県と出身国とのネットワークの架け橋になる人材を育成し、もって、双方の国際交流に寄与せしめることを目的としています。

昭和44年度（1969年）にボリビアからの留学生1名の受け入れから始まった本事業は、これまでに629名の留学生を受け入れてまいりました。

留学生は沖縄の歴史や文化の理解者として、帰国後、それぞれの地で本県との架け橋となり活躍しています。

平成28年度は、ブラジル2名、ペルー2名、アルゼンチン1名、ボリビア3名、アメリカ4名、中国（福建省）1名、台湾2名の合計15名を受入れました。

この報告書は、留学生が沖縄滞在中に感じた日本・沖縄に対する率直な意見や感想、大学や研修先での修業成果等をまとめたものです。様々な経験を経て成長していく姿を見ていただき、本事業理解の一助となれば幸いです。

また、昨年開催された第6回世界のウチナーンチュ大会において、10月30日が「世界のウチナーンチュの日」として制定されました。これにより、沖縄をキーワードに繋がる世界のウチナーネットワークがより強化され、更なるネットワークの継承と発展に繋がるとともに、留学生がこのネットワークの一員としてより一層活躍していくことを期待しています。

最後に、本事業実施に当たり、留学生を受け入れていただきました琉球大学、沖縄国際大学、名桜大学、沖縄県立芸術大学、金秀商事株式会社、オリオンビール株式会社、沖縄県三線製作事業協同組合、並びに関係者の方々に対し、心から感謝申し上げます。

平成29年3月

沖縄県文化観光スポーツ部長  
前田 光幸

## 目 次

### ○ウチナーンチュ子弟等留学生（15名）

- 縁・いきやへや兄弟  
金城 小百合（アメリカ）……………12
- いいタイミングからよく勉強できた！  
中津 サーラ 明美（アメリカ）……………18
- 三線の音で生きている  
大城 ブルーナ マリコ（ブラジル）……………28
- 沖縄古里  
モレノ マリア フロレンシア（アルゼンチン）……………34
- 沖縄での長い短い一年  
照屋 ブルーナ ちえり（ブラジル）……………40
- 沖縄でしか確かめられなかった、自分のルーツ  
玉城 上原 美幸（ペルー）……………46
- これからもよろしくお願いします  
安座間 上地 カテリネ 直未（ペルー）……………50
- 学びと吸収の一年間  
安里 直也（ボリビア）……………55
- オキナワと沖縄の架け橋  
比嘉 成美（ボリビア）……………61
- 沖縄、にふえーで一びる」  
屋良 良子（ボリビア）……………68
- 移民文化を終始する沖縄での学生生活を振り返る  
廖 立南（中国）……………74
- ウチナーンチュの優しさー沖縄留学の感想ー  
許 哲競（台湾）……………77
- 日本の留学生活  
唐 彌奇（台湾）……………81
- 「ゆーらんまりとーん」：三線作り  
神谷 ジョセフ 嘉益（アメリカ）……………84
- 沖縄で三線作り  
ゲスリング マイヤ ダナオ（アメリカ）……………90



平成28年度 ウチナーンチュ子弟等留学生 修了式 平成29年3月16日 於・沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハ

## ウチナンチュ子弟等留学生事業概要

### 【目的】

この事業は、沖縄県出身移住者子弟及びアジア諸国等から優秀な人物を選抜し、県内の大学や県内企業、伝統芸能修得機関で就学・研修させ、沖縄の歴史・文化・習慣の理解や、県内企業での実務経験、県民との交流を深め、将来的に本県と出身国とのネットワークの架け橋になる人材を育成し、もって、本県との国際交流に寄与せしめることを目的とする。

### 【事業のあゆみ】

1903年、本県から世界各国への海外移住が始まって以降、その移住者たちは各国で県人会などの独自のコミュニティーを作り活動している。そういった海外移住者の子弟を対象とし、沖縄県が昭和44年に海外留学生受入事業を開始、ポリビアからの県系人子弟留学生を受入れて以来、「アジア諸国等留学生」等を含め、これまでに15カ国1地域からのべ629人を受入れている。

### 【事業内容】

本事業では、留学生は「科目等履修生コース」または「伝統芸能修得コース」にて就学・研修を行う。

#### ① 科目等履修生コース

A：日本語＋科目選択 (1年)	県内の各大学で科目等履修生として就学します。
B：日本語＋科目選択＋企業等研修 (1年) (6ヶ月)	科目履修修了後、実際に県内の企業に入って研修します。

#### ② 伝統芸能修得コース

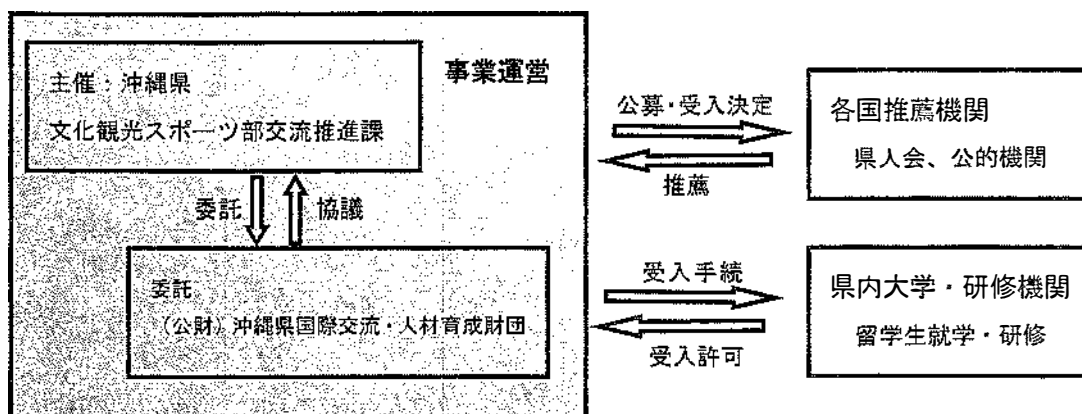
日本語学校＋伝統芸能・工芸研修 (3ヶ月) (9ヶ月)	県内の日本語学校で3ヶ月学んだ後、伝統芸能を教えている各学校・教室・施設で9ヶ月間技術研修を実施します。 ※日本語学校は研修生の語学力により判断します。
漆器、紅型、三線作成、花笠作成、琉球料理（沖縄料理）、空手等	

## 【運営体制】

沖縄県からの委託を受けて、(公財)沖縄県国際交流・人材育成財団(以下「財団」。)が沖縄県と連携しながら当事業を実施した。

留学生の選考・決定については、財団が各国の推薦機関へ留学生を公募し、推薦のあった候補者から県と協議のうえ決定した。

受入が決定した後、各々の大学や研修機関へ出願、受入許可を得て就学・研修を行った。



## 【本年度の主な取り組み】

4月初旬	ウチナンチュ子弟等留学生来沖	
4月中旬	就学/研修、沖縄での生活の準備	
4月22日	沖縄県副知事表敬及びオリエンテーション・懇親会	沖縄県庁
4月30日	通年研修 開始(全10回)	琉球大学
6月12日~17日	移民展パネル展示	沖縄県庁
6月18日	移民の日交流会	テンプスホール
6月23日	平和学習研修	平和祈念公園
9月5日~6日	伊江島民泊研修	伊江島
10月26日~30日	第6回世界のウチナンチュ大会	
11月13日	アイデンティティワークショップ	沖縄国際センター
3月6日~8日	京都県外研修	京都府各所
3月16日	平成28年度ウチナンチュ子弟留学生修了式	かりゆしアーバン リゾート那覇
中旬	留学生 帰国準備	
中旬~下旬	留学生帰国	

※この他、県内外で実施された交流・協カイベントに参加。

## 【プログラムの概要】

### ① オリエンテーション

日程：平成28年4月22日

場所：沖縄県庁

目的：沖縄での留学生活について知る。

内容：

沖縄での留学生活がはじまった留学生は、この事業の目的、ウチナーンチュ子弟等留学生として留意することと義務の確認、大学や研修機関での生活について確認しあった。

併せて、県庁内を施設見学し、普段は入ることのできない知事応接室等を見学した。

また、第6回世界のウチナーンチュ大会を控えたウチナーンチュ大会事務局を訪問し、激励をもらった。



### ② 副知事表敬

日程：平成28年4月22日

場所：沖縄県庁

目的：副知事を表敬し、1年間の留学生活における抱負を述べる。

内容：安慶田副知事を表敬訪問し、各々の1年間の抱負を述べた。

副知事からは、今年度10月に開催される第6回世界のウチナーンチュ大会へぜひ参加し、それぞれの活動を通して盛り上げてほしいとの挨拶があった。



### ③ 通年研修（アイデンティティ研修）開始

日程：4月30日～11月13日（全10回）

4/30 研修開始・オリエンテーション	8/13 沖縄の文化
5/20 留学のワーク	9 / 5 各国での県人会の活動
6 / 4 平和学習（沖縄戦について）	10/15 自分のアイデンティティについて
7/24 平和ディスカッション	11/13 ワークショップの準備
8 / 7 平和学習の振り返り	10/15 アイデンティティワークショップ

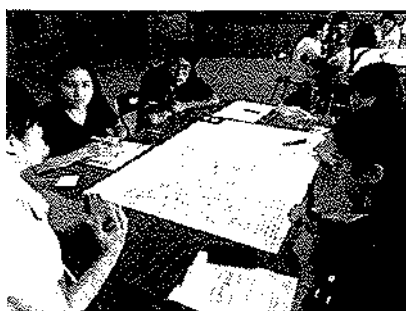
場所：県内各所

目的：留学生がこれまでとこれからについて考え、相互に学び合うことで、留学に至った経緯、沖縄で何を学び帰国後の活動につなげるかを意識することで、本県と出身国との架け橋となる人材を育成することを目的とする。

内容：

全10回の研修で、留学生それぞれの経験を共有し、自分自身を見つめ直すことで、「帰国後この経験をどう活かすか」を考えた。

オリエンテーションにはじまり、留学のワークでは琉球王国時代からの「留学の歴史」を学んだ。平和学習では、「平和学習研修」（後述）と併せて実施し、県内学生や県国際交流員と「平和とは？」をテーマにそれぞれの国、個人での平和についての視点の違いなどについてディスカッションを行った。

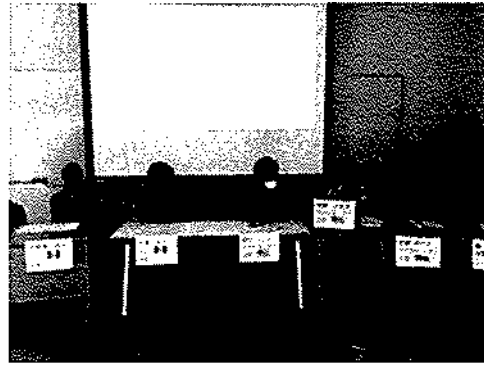


また、お盆やシーミーなどの沖縄の伝統文化についても学ぶとともに、世界各国での市町村人会、県人会、沖縄と関わる活動を留学生が紹介した。留学生からは、ここまで学んで来たことをもとに留学する前、直後、現在では、出身国・沖縄・生まれた町・家族の一員などの間で様々な変化があり、時間や環境によって自分自身は変化していることを実感した

という感想があった。

最後は、JICA 沖縄国際センターにて「アイデンティティワークショップ」を開催し、参加した県民、市町村研修生とグループワークやディスカッションを行い、それぞれのアイデンティティについて共に考え、最後のまとめでは、「生まれた国や文化などのルーツに関係なく、そのときの環境や周りとの関わりでアイデンティティは変わっていく」と考え、帰国後の沖縄と出身国との架け橋となる人材として活動することの大切さ、そのヒントを得る事ができたと発表があった。参加した方々にも好評で、「自分自身のアイデンティティ」について考えるきっかけを提供することができた。





#### ④ 移民パネル展

日程：平成28年6月12～17日

場所：沖縄県庁 1階エントランス

目的：海外移住者について広く県民に伝える。

内容：

6月18日の「海外移住の日」に合わせて毎年行われる「移民パネル展」へ、留学生が各々の国のパネルを作り出展した。

出身国ごとに工夫を凝らして作ったパネルは、5日間にわたり県庁に展示し、来庁者に海外移住者のこと、それぞれの出身国のことを紹介した。



#### ⑤ 移民の日交流会（主催：パンアメリカン連合会）



日程：平成28年6月23日

場所：テンプスホール

目的：移民の日交流会へ出席し、県民との交流を深める。

内容：

6月18日の「海外移住の日」は108年前に日本初の海外移民が行われた日であることから、毎年その日にパンアメリカン連合会が主催する「移民の日交流会」に、ウチナーンチュ子弟等留学生が参加した。留学生は「島人の宝」と「あしびな一」を歌、三線、踊りとともに披露し、「ウチナーンチュ子弟等留学生受入事業」実施要綱第2条（6）にある留学生と県民の交流の推進に則し、県内の国際交流団体と親交を深めた。

## ⑥ 平和学習研修

日程：平成28年6月23日（慰霊の日）

場所：平和祈念公園・平和祈念資料館

目的：近代の沖縄の歴史を語るうえで重要な沖縄戦について知識と、県民の平和への意識への理解を深めるとともに、学んだ事を相互に語りあうことで自身の考えを深めることで、本県の歴史・文化への理解を深めることを目的とする。

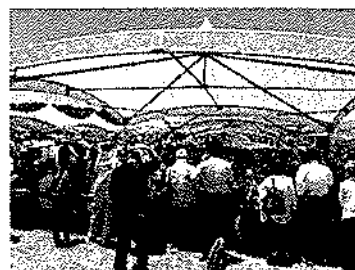
内容：

毎年6月23日平和祈念公園で行われる「沖縄全戦没者追悼式」に合わせ、平和について考える研修を行った。

平和祈念資料館では、当時の状況や体験者の方々の思いのわかる貴重な資料をじっくりと見て、聞いて、読んでいた。

平和の礎に刻まれた自身の親族の名前を紙に写し、来場していた県民と会話し、交流する留学生の姿が見られた。追悼式典にも参加し、県民と平和を願い黙禱を行った。

資料館、追悼式典で感じたことをもとに、通年研修の一環としてディスカッション・ワークショップを行った。



## ⑦ 離島研修（伊江島）

日程：平成28年9月5日～9月6日

目的：民泊を通して、本島周辺離島の自然や人々の暮らしを体験する。

内容：

9月5日に入村式を行い、各家庭での民泊を実施した。



当初2泊3日を予定し、海洋体験、家業体験を予定していたが、台風の接近により1泊2日となってしまった。

1泊の間に島内の案内や、各家庭の家業について説明、夕食を共にするなど、留学生を受け入れた民家の皆様には家族として接してもらい、ぜひまた来てほしいとの暖かい言葉をかけてもらった。短い間ではあったが、留学生と受入民家の皆様と密に交流することができた。

### ⑧ 第6回世界のウチナーンチュ大会への参加

日程：平成28年10月19日～平成28年10月31日

目的：ウチナーネットワークを持続的に継承・発展させるとともに、沖縄独自のソフトパワーを国内外に発信し、その魅力と可能性を活用して沖縄の未来を切り開く。

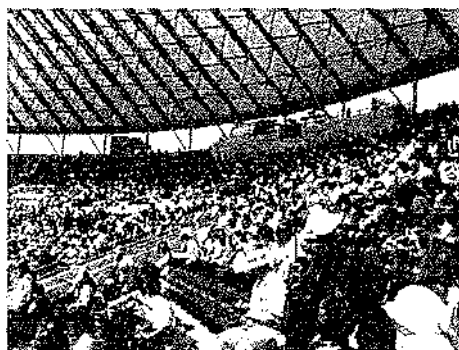
内容：

5年に一度開催され、本年で第6回となる世界のウチナーンチュ大会の各イベント、連携イベントに参加した。

国際通りで行われたパレード、開会式・閉会式で行われた三線一斉大演奏会、世界各国から集まった県人会・民間大使の方々と意見交換を

した「ゆんたくさびら世界のウチナーンチュ」などのイベントに参加し世界中から集まった沖縄に縁のある人々、沖縄のこれからの興味のある人々と交流を深め、また、県内各地で開催された連携イベントにもそれぞれが参加し交流を深めた。

その他にも、より沖縄の文化と歴史を知り、出身国とのネットワーク形成の重要性を感じることで数多くのイベントに参加することができた。



### ⑨ 京都県外研修

日程：平成29年3月6日～8日

場所：京都市内各所、平等院

目的：留学生が日本の代表的な伝統文化に触れ、これまでの留学の経験から知った本県の文化と比較することで、より深く本県を理解することを目的とする。

内容：

京都での宿泊は宿坊を利用し、朝の勤行に毎朝参加し、朝食・夕食は精進料理食べ、普段とは全く違う生活スタイル体験し、貴重な経験となった。

1日目は国宝である風神・雷神や重要文化財である約千体の仏像等が納められた三十三間堂を視察した。

2日目は、宿坊として利用する智積院に納められた国宝の障壁画を鑑賞した。また、京都市内各所に点在する国宝・重要文化財となる寺社仏閣や日本の伝統的な文化を体験できる施設、博物館などを視察した。

同行したガイドから各所の説明を受け、実際に見聞きすることで、数多くの新たな発見があり理解を深めた。

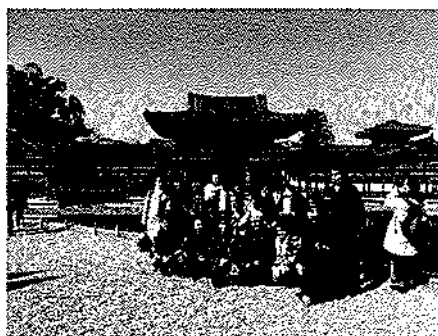




また、各施設の視察の後、能楽堂での「能楽体験」を実施、沖縄県の組踊りにもつながる能楽について、その歴史や面の種類や意味などを学んだ。能の舞台上に上り実際の面や衣装を体験、歌のお稽古、踊りのお稽古を体験した。

3日目は、平等院を訪れ、鳳翔館（資料館）、十円玉に刻印され国宝にも指定されている平等院鳳凰堂の内部を観覧した。鳳翔館で平等院・鳳凰堂の概要や歴史などを学び、それぞれが興味を持って展示を鑑賞し、不思議に思ったことなどをガイドに質問する姿が見られた。資料館で学んだ後、実際に鳳凰堂内部を見ることで、より理解を深めた。

3日間を通して、留学生は日本の伝統文化に触れながら、沖縄の文化と似たところ、違ったところを発見することができ、この経験を帰国後も持ち帰り出身国での活動に活かすことができると考える。



### 平成28年度ウチナンチュ子弟等留学生修了式

日程：平成29年3月16日

平成28年度ウチナンチュ子弟等留学生

修了式

1. 開式
2. 留学生の紹介 留学生15名
3. 修了証書授与 沖縄県副知事 富川 盛武
4. 式辞 沖縄県 知事 翁長 雄志  
(富川副知事代読)
5. 来賓式辞 沖縄県立芸術大学 学長 比嘉 康春
6. 留学生代表挨拶 沖縄県立芸術大学 金城 小百合
7. 閉式
8. 記念撮影



## 成果発表会

1. 開会
2. 開会の挨拶 (公財)沖縄県国際交流・人材育成財団理事長山田保
3. 来賓祝辞 琉球大学 学長 大城 肇
4. 乾杯の音頭 金秀グループ 会長 呉屋 守將
5. 懇談
6. 留学生による成果発表
  - (1). かぎやで風
  - (2). 展示作品の説明
  - (3). 活動報告①
  - (4). 琉球芸能
  - (5). 活動報告②
7. フィナーレ
8. 閉会



場所：かりゆしアーバンリゾート那覇

目的：留学生プログラムに参加しての報告

内容：

本年度の留学生プログラムを全て修了し、沖縄での生活、学んだことについて報告した。会場には、留学生が各受入機関で作成した作品を展示した。

修了式では、沖縄県副知事富川盛武から修了証書を受け取り、翁長知事からの式辞では「今後出身国に帰った後、沖縄の歴史や文化の理解者として、沖縄との懸け橋となり、活躍してほしい」と激励の言葉が送られた。

その後の成果発表会では、それぞれが留学中に得た琉球楽器の演奏や踊りの技術を披露し、留学期間中に得た経験や発見や思いを発表した。



## 平成28年度ウチナンチュ子弟等留学生 名簿



**金城 小百合**

出身国/地域：アメリカ合衆国

沖縄県立芸術大学

音楽学部 科目等履修生



**中津 サーラ 明美**

出身国/地域：アメリカ合衆国

沖縄県立芸術大学

音楽学部 科目等履修生



**大城 ブルーナ マリコ**

出身国/地域：ブラジル連邦共和国

沖縄県立芸術大学

音楽学部 科目等履修生



**モレノ マリア フロレンシア**

出身国/地域：アルゼンチン共和国

沖縄県立芸術大学

美術工芸学部 科目等履修生



**照屋 ブルーナ ちえり**

出身国/地域：ブラジル連邦共和国

沖縄県立芸術大学

美術工芸学部 科目等履修生



**玉城 上原 美幸**

出身国/地域：ペルー共和国

沖縄県立芸術大学

美術工芸学部 科目等履修生



**安座間 上地 カテリネ 直未**

出身国/地域：ペルー連邦共和国

沖縄国際大学

科目等履修生



**安里 直也**

出身国/地域：ボリビア多民族国

沖縄国際大学 科目等履修生/

オリオンビール株式会社 企業研修生



**比嘉 成美**

出身国/地域：ボリビア多民族国

沖縄国際大学 科目等履修生/

金秀商事株式会社 企業研修生



**屋良 良子**

出身国/地域：ボリビア多民族国

琉球大学 共通教育科目

共通教育科目 科目等履修生



**廖 立南**

出身国/地域：中国

琉球大学 共通教育科目/観光産業科学部

科目等履修生



**許 哲競**

出身国/地域：台湾

名桜大学大学院

国際文化研究科文化教育研究領域 研究生



**唐 彌奇**

出身国/地域：台湾

名桜大学 国際観光産業学群



**神谷 ジョセフ 嘉益**

出身国/地域：アメリカ合衆国

伝統芸能習得コース

沖縄県三線製作事業協同組合



**ゲスリング マイヤ ダナオ**

出身国/地域：アメリカ合衆国

伝統芸能習得コース

沖縄県三線製作事業協同組合

## 縁・いきやへは兄弟

金城 小百合（アメリカ）

沖縄県立芸術大学

2016年の4月、平成28年度のウチナーンチュ子弟等留学生として沖縄に来日、梅雨時でとてつもない湿気の凄さに呆然としたのが沖縄への第一印象です。この亜熱帯地域で暮らす事で健康管理の方に時間をかけそうな気がしました。

不安とドキドキ感を持ちながら沖縄での生活が始まりました。この一年で沖縄県立芸術大学で琉球芸能を学び、ルーツ・家族とふれあい、北米・南米、とアジアの留学生と時間を過ごし、現地の人達や行事に接し、県内・県外研修に参加した事で様々なアングルから「沖縄」を見ることができ、体験をすることができました。

もっとも時間をかけたのは琉球芸能です。沖縄県立芸術大学で琉球舞踊・組踊を専攻にし、一回り年下の18歳のクラスメート達と一緒に芸大・琉芸一年生の生活をおくりました。ほぼ毎日、青緑色の学年着を着て、授業の始まりは苦手な正座から始まりました。恥ずかしいですが、最初に習った事は正座での足のしびれを無くす方法でした。琉球舞踊実技で正しい挨拶・お辞儀の仕方、舞踊の歩み、基本の動きを復習・習いました。形や動きだけではなく、琉歌の意味、踊りの内容、表現や感情を入れる大切さも習いました。一般的に琉球舞踊では、一つの流派に所属すると、他の先生・他の流派の踊りを習うことはありません。ですが、芸大では他流の先生に教わるすることができます。同じ演目でも、例えば「かぎやで風」、流派によって回り方や、顔と体の向く方向、踊り方（手）が変わります。自分が今まで習ってきた流派の「手」を一度リセットして、新しく学ばなければなりません。自分の「手」が「クセ」や「間違い」に変わるからです。雑踊りになると踊りは全く変わります。同じ歌詞でも表現が様々あり、自分の流派の手を忘れずに新しい踊り方をならいます。基本をし



っかり身につける授業です。流派により手は違っても、基本は変わらないとあらためて教わりました。

かぎやで風、若衆こてい節、女こてい節、四季口説、黒島口説、取納奉行、若衆ゼイなどの踊りを習い、芸大の学内演奏会と定期公演、首里城での中秋の宴と正月の新春の宴でクラスメート達、先輩方、卒業生、先生方と一緒に舞台に出ることができました。一つ一つの演目は大切な思い出です。中秋の宴では首里城の幕を後ろにではなく、ライトで照らされた真っ赤な首里城をバックにして若衆こてい節を踊りました。定期公演では「かぎやで風」を踊り、老人老女、ペーチン、うみない、若衆と全部の主役が揃った幕開けでした。夏休みと冬休みもほぼ毎日芸大で稽古をしました。正月の新春の宴で踊ることが決まった時、芸大生は休みが少ないなと思いました。その時先生が言ったのは、「みんなが家族と時間を過ごす時に舞台や裏方の手伝いなどを頼まれることはこれからもっともっと増えていきますので、家族や友達とは毎日大切にしてください。」これは琉芸をやっている人達だけではなく皆にも当てはまることだと思います。

様々な物を習いましたが、自分が一番難しいと思ったのがグループ・団体で踊ることでした。音取りや手も難しい踊りでは一生懸命に踊ったら、他人が見えなくなってしまい、一年生(3名)で踊ったらいつも「合わない」と言われました。先輩方からのコメントは「3人別々に踊っているように見える」「気持ちの一つになっていないように見える。」と言われ、何度も繰り返し練習が必要ではなく、どうやって会場の皆さんに伝わるかを考える期間でした。





組踊実技では玉城朝薫の作品「執心鐘入」の台詞の唱え方から立ち方を習いました。台本を手にし、小道具を持ちながら張り出し舞台の上で演じました。詳しく習うため、詞章研究の授業で「執心鐘入」、「二童敵討」、「花売りの縁」の組踊について深く、台詞一つ一つの分析をして、理解をするように学びました。芸能論では琉球王朝時代の歴史や御冠船踊りについて学び、芸能の「なぜ？」について語るディスカッションをしました。組踊の生みの親である玉城朝薫について学び、「執心鐘入」が舞台となった首里の末吉公園へ行くこともありました。舞踊や組踊だけではなく三線、笛と太鼓を習いました。楽器を習ったことがなく、全くの初心者ですが、なんとか三線を引き、笛を吹き、太鼓を叩くことが出来ました。



琉球舞踊を通して沖縄の事を学ぶこともできます。首里城から国頭の辺戸へ「お水取り」と言う行事にも参加しました。辺戸の大川から水をくみ、祈りを込め、健康と・寿で良い年を迎えるよう首里城まで運ぶ行事です。

県費留学ではいくつかの学習がありました。他の研修に参加したことで、さらに沖縄の見方が広がったような気がします。夏と冬の兵庫・沖縄友愛キャンプに参加したことで、兵庫県と沖縄県をつなげる島田叡の歴史、沖縄戦、



基地問題、阪神大震災などの学習ありましたが、他県の人達一緒に沖縄と兵庫の素晴らしさを体験し、探すことができました。



一年間沖縄で過ごすことが出来たので、夏と冬しかない季節と祭りや行事を経験することができました。金城家のシーミーとお盆は初めて見るものでビックリすることが多

かったです。お墓の前でのピクニックや仏壇に捧げるサトウキビには驚きました。大勢の親戚が集まるお祝い時はオードブル、おばあちゃんの手作りジュースと中身汁はとても美味しかったです。2月にはおじいちゃんの90歳の誕生日を家族みんなで祝いました。おじいちゃん・おばあちゃん元気で長生きすることを祈ってます。



年中の8割はとても暑く、沖縄はやっぱり亜熱帯地なんだと分かります。1月-2月には桜、コスモス、ヒマワリが満開です。暖かい沖縄でも冬には海からの風がもの

すごく冷たく寒いです。夏のイメージのヒマワリを見に行った時はスカーフを首に巻きました。

留学期間が終わる頃に、よく「縁」という言葉を聴きます。今まで何度も聴いてきた言葉ですが、一年の留学が終わりに近づくと気づき始めたのかもしれませんが。

首里城近くに、沖縄では最後とも言える金細工またよしの工房へ行きました。又吉健次郎先生は琉球舞踊の古典女踊のシンボルとも言えるジーファー（かんざし）やフサイービナギー（指輪）を作る職人です。彼に「あなたと会うのも何かのご縁です」と言われ、今・今日ここにきた理由も意味がある・何かの縁だと思いました。「執心鐘入」に若松と宿の女の「ご縁」について語る所があります。踊りの先生方に、短い一年間で芸大で学べる事も県費留学生と先生との何かの縁だと言われました。偶然ではない。

舞台に立つのは一度だけではないかもしれないけれど、一つ一つの舞台は一度だけです。

英語で“seize the day”、ラテン語で“carpe diem”、日本語では「一期一会」、ウチナーグチで似ている言葉は「いちやりばちよ一で一」です。一度合えば兄弟と訳しますが、これも「縁」の一つです。この「いちやりばちよ一で一」は組踊の「大川敵討」の台詞「いきやへは兄弟 何うち隔てのあが」（行き会えば兄弟、何の隔てがあろうか）から来たと言われています。この一年間は自分のルーツである沖縄のことを考える時間でした。楽しい事や厳しいチャレンジもありました。この一年間は琉球芸能を通して、沖縄のこと学ばっかけです、始まったばかりです。まだまだ学ぶことがたくさんあります。年下のクラスメート達や先輩方と一緒に、琉球芸能をもっと好きになりました。沖縄のことがもっと好きになりました。



いいタイミングからよく勉強できた！

中津 サーラ 明美（アメリカ）

沖縄県立芸術大学

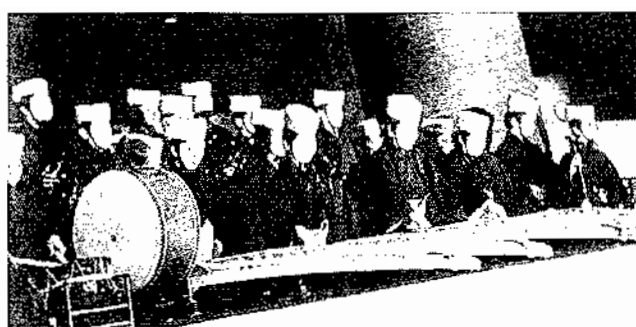
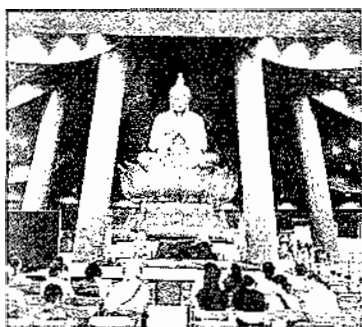
この一年間にチャレンジがいっぱいありました。私の目的は琉球箏曲だけど、他のこともありました。私は日本に住んでいた外国人ですから、生活を習わなければなりませんでした。それも、この一年間は初めて一人で住みました。琉球芸能の人ですから、この夏コンクールを受ける機会もありました。そして、学校で勉強して、夏までコンクールを準備しましたから、自身を忙しくしていました。コンクールがもう終わった後でも、まだ忙しくしていました。



#### 学校の舞台

この一年間に沖縄県立芸術大学（芸大）で琉球箏曲を勉強していました。今お箏を専攻する人が少ないから、私には機会がいっぱいありました。それと、ハワイで地謡とかの伴奏をしたことがあったので、学校の舞台のための伴奏を準備していました。

最初に、こどもの日に平和記念公園で演奏しました。まずは琉球古典音楽の斉唱、その後は子供たちが踊って芸大生が地謡をしました。斉唱と地謡が少しできました。この時に先生たちは私の弾けるレベルをあまり知らなかったから、簡単な曲を弾きました。この機会があったから、芸大舞台の作業が見えました。



夏になってから、たくさん舞台がありました。学内演奏会と、初任者研修と、秋中の宴がありました。学内演奏会と初任者研修で組踊を始めて伴奏しました。調弦をととても気をつけなければなりませんでした。この機会はお箏を弾く勉強だけど、座り方と曲の始まり方の勉強でもありました。地謡の人は聞かせるためにいるから、お客様があまり見ないように曲を始めて弾いて終わりたいんです。秋中の宴では調弦のチャレンジでした。ぜい踊りの中で調弦が変わるからチャレンジでした。また、きれいに調弦を変えなければなりませんでした。でも、この時は夜で、お箏のチョークの場所があまり見えなかったから耳を使わなければなりませんでした。ちょっと大変でしたけど、曲を終われました。



夏休みが終わった後で、学校の定期公演がありました。この舞台はウチナンチュ大会の間にありましたから、とても忙しくなりました。また



琉球古典音楽の斉唱があって、琉球舞踊と組踊もありました。斉唱に全員が参加して、後で、先生と先輩たちも参加しました。私は舞踊の伴奏をした唯一の学生でした、とてもありがたいです。この舞台におばさんとハワイのお箏先生も来れたからありがたいです。

また1月に来てから、学内演奏がありました。この学内で私は独唱をしました。お箏の先生は源氏節を選ばれました。この曲はハワイであまり弾いたことがありませんし歌い方の細かいところもありますので、ちょっとチャレンジし

ましようと思いました。でも、一番チャレンジしたことは本番の週に風邪をひいて、咳と鼻水もあったから歌いにくかったことです。調弦をちょっと下げたら、歌えるになりました。頑張って、おかげさまで私は終われました。その独唱と生田流箏と琉舞の地謡伴奏をしました。

最後の学校の関係舞台は外務省沖縄事務所の20周年レセプションでした。一週間しかなかったので、できる曲を弾きました。残念なのは誰も写真を撮りませんでした。でも楽しいイベントでした。

### 学校以外の舞台

芸大の県費留学生として沖縄に来たとしても、学校に関係ない舞台もありました。先生たちのおかげでいっぱい舞台でたことがあります。私は本当にありがたいです。



平成28年の琉球新報の琉球古典芸能コンクールを受けて合格しました。沖縄に来る前にお箏と舞踊のコンクールを受けることを予定していませんでしたから、三ヶ月は準備するために短いと思いました。でも、



先生たちが私を信じるからちゃんと稽古に行って、練習して準備ができたと思いました。受ける日にも友達、先輩、先生も応援していたから合格しました。

- 5 根川 直美
- 7 花城 舞夏
- 8 西平 守幸
- 9 久手堅 玲奈
- 10 中津 サイヲ 明美
- 11 増田 早苗
- 12 赤嶺 秀斗
- 13 宮笠 真理子
- 14 平山 穂乃佳







先輩たちから願されたので、私は貢献という、舞台に小道具を持って行って持って帰る人でした。

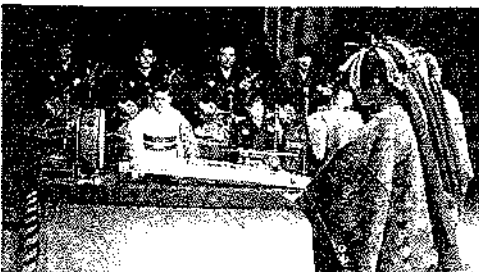


コンクールに合格した人は芸能祭で出るはずだから、芸能祭も参加できました。三日間でました。

最初の出る日に、先にかぎやで風節を踊って、早く舞踊化粧をとって着替えて稲まづん節の地謡伴奏をしました。あと二日間はお箏を弾いただけなので、そんなに忙しくありませんでした。



ほとんどのハワイから来てコンクールに合格した人は仕事か学校であまり芸能祭で出られないから、この時は特別と思いました。それにも、ほとんどの新人賞の人はあまり地謡伴奏で出られませんからまた特別と思いました。



平成28年にも世界のウチナーンチュ大会がありました。そして、沖縄県立博物館で舞台がありました。この舞台で沖縄に住んでいる外国人の舞台でした。



これでは私がずっとお箏を伴奏したから、一番難しいお箏の機会でした。琉舞の地謡以外は長峰ルーシさんの独唱伴奏をしました。これは一番緊張の舞台でした。



ウチナンチュ大会の時に国立劇場おきなわで舞台がありました。この時に芝居に参加しました。この芝居の練習について、二週間しかありませんでした。他の皆はプロフェッショナルの琉球芸能人ですから、超緊張していました。でも、本番の日は楽しかったです。



首里城でよく琉舞の舞台があります。そして、安座間本流の番になったら、私も参加できました。二回参加しました。一回目にかせかけを踊って、二回目に上り口説を踊りました。この経験は楽しかったと思います。毎回三回踊りましたから一日中首里城にいました。

## 芸能と関係ない活動



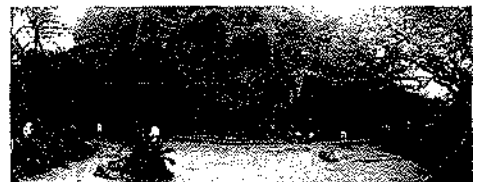
夏休みに古宇利島に行きました。友達と一緒に祭を見に行きたかったです。この祭りでたくさん琉球芸能がありました。古宇利島にとっても綺麗な海もありますので観光した時にいっぱい写真を撮りました。あついんですけど、まだ楽しめました。



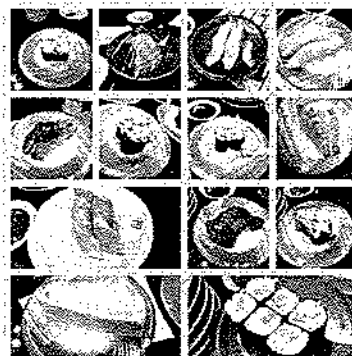
県費の皆さんと伊江島に行きました。二泊三日泊まるはずだったけど、台風が来るはずだったから早く帰りました。ちょっと残念だけど、いっぱい食べられた、城山に登れました。アイデンティティ研修はほとんどの時間をかかったから、他の時間がありませんでした。超短かったけど、楽しかったと思います。

冬友愛キャンプに参加しました。兵庫県に行って、よく遊んで、食べて、楽しみました。新しい人と会ったから違う人と話せました。いつも新しい人と会ったら、私は恥ずかしくなります。でもそれをわかった人もいたから、いっぱいしゃべりました。

芸大でハワイから来た友達が働いていたからいっぱい観光できました。ひまわりと桜を見に行きました。いっぱい花を見ましたから嬉しかったです。あっちこっちの芸大生の出品を見に行きました。中城城と勝連城も見に行きました。



## 伺った人



年間を通じて家族と友達が伺いに沖縄に来ました。両親と私の彼氏は夏と冬やすみにきました。その時にいっぱい食べて遊べました。ちょっと観光できました。両親は正月の時にいたから、首里城も行きました。



ウチナンチュ大会の時に友達と先生たちと家族も来ました。その時は忙しかったけど、ハワイの皆と一緒に遊べました。パレードも参加できたから素晴らしいかっと思ひます。

## 自分の習ったこと

沖縄で勉強することについて、たくさん自分のことを習いました。日本語はあまり上手じゃないので、他の方法で勉強しなければなりませんでした。よく

目と耳を使って勉強しました。弾き方と踊り方だけじゃなくて、曲の意味とかも一緒に勉強できるように、聞くこともちゃんと習いました。

私は習うために舞台で出ることだけじゃなくて、よく舞台を見に行ったことがあります。こんな勉強が大事ということも習いました。よく見なければ、ちゃんと踊り方と伴奏のやり方を見えなかったと思います。それと、たくさん先輩と先生たちも出たから応援することも大事だと思います。そのようにでる人がいなかったら、私たちも習えませんと思います。



自分で住むことを始めてからちょっと生活とかの自分のことも習いました。今一人であることを怖がらなくなりました。この一年前には一人で何もやりたくありませんでした。そして、今一人で食べて、買い物ができる、どこにでも行けるになりました。ハワイに帰ってからまだ一人であることもやりつづけたいと思います。

家族と彼氏がいなかったら、私はこの一年間をしのげなかったと思います。この一年間で芸大で留学しながらコンクールを受けたから、忙しかっただけじゃなくて、頭もいっぱいになったからどんどん心配して緊張するになりました。でもハワイの皆さんがいつも「サーラ、できるよ！」と言われたから気持ちを上げられました。先輩と先生たちも励ましたから、できる気持ちになりました。そのような応援する人がいなかったら学校の目的以外の事はできなかったと思

います。とても間がいいと感じます。それで、このような人に本当に感謝しなければならぬと思います。

それではこの1年間はとってもいいタイミングといい勉強がいっぱいあったと思います。もうちょっと早く来たかもうちょっと待っていれば、多分こんな機会はないと思います。私の家族と友達と先生と先輩にとってもありがたいです。

ハワイに帰ったら、後でハワイから県費に来る人を手伝いたいです。そして、県費が沖縄にいるときも、ハワイから応援したいです。

## 三線の音で生きている

大城 ブルーナ マリコ (ブラジル)

沖縄県立芸術大学

私は子供のときから、ブラジルの沖縄県人会に通っています。オジーとオバーは三線が大好きで、私も興味を持つようになりました。

沖縄で留学するのは2回目です。沖縄にはじめて来たとき、芸大のオープンキャンパスに行きました。そして、芸大で琉球古典音楽を勉強したいと思いました。

留学に来る前に、自分のやりたいことのリストを書いて、やりたいことはだいたいやりました。とても嬉しいです。

この1年間、沖縄県立芸術大学で学んだことはたくさんあります。琉球古典音楽のがくふを読むようになりました。声のだしかたと三線の弾き方はちがうので、最初はとても難しかったです。そして、正座でお稽古するのははじめてでした。まだまだ慣れていませんが、正座のおけいこして、いい勉強になりました。昔からの文化で、みんな舞台上で正座をやりますので、きれいに見るとおもいます。

それから、芸大の舞台に参加していろいろ勉強になりました。学内演奏会や定期公演や芸大さいに参加したことは、素晴らしい経験でした。最後の学内演奏会ではじめて古典の独唱をしました。チャレンジでした。学生たちは一所懸命お稽古して、皆で舞台のそうじをして舞台上で色んな手伝いしてから舞台上にでます。それをみたら、感動しました。みんなの力は大事だと感じました。

学校の授業で、踊りの地方実技をやりました。地方は自分だけ上手ではなくて、



みんなと何回も合わせて綺麗な舞台をみせます。歌三線、琴、笛、太鼓、踊り、また姿勢は大事です。

歌三線以外、笛、太鼓、琴、踊り、組踊、ふんそうほう、日本語、琉球語も勉強しました。まだいっぱい勉強したいですが、1年間いっぱい勉強する機会があってとても嬉しいです。

芸大の先生達のみなさん、いっぱい勉強させていただきたり、忍耐教えたり、チャレンジしたり、いつも感謝しています。同級生、先輩のみなさんはとても上手でやさしくていろんなアドバイスをいただきました。



こどもの日 ー平和祈念堂ー



比嘉学長

週末、沖縄国立劇場で色んな舞台をみるきかいがありました。組踊や琉球舞踊やそうさく舞踊や独演会をたくさんみました。本当に素晴らしいので、みんなブラジルに来てほしいなと思っています。

8月、琉球古典芸能コンクールに参加して、新人賞の合格することができました。「伊野波節」という難しい曲でした。コンクールが終わって、芸能祭と受賞式に参加しました。友人のみなさんたくさん頑張って合格できてとても嬉しいです。

夏休みのとき、八重山の石垣島で有名なとうばら一ま 大会へ見に行きました。いつも、インターネットで「とうばら一ま」と言う曲を聴いて感動しました。せいかく沖縄にいたので、とうばら一ま大会にほんとうに行きたいと思いました。最初は、見るだけだと思いましたけど、なかどう道ぬとうばら一ま大会（本番の前日）に、参加するようになりました。友達が申し込みしました。とても緊張しました。そして、八重山民謡の先生達と2次会に参加しました。地球のはんたいがわにとうばら一まが歌うと嬉しいと聞きました。そして、先生達のアドバイスをいただきました。参加者の皆さんはほんとうにすごいです。それから、友達はいろんなところに連れて行って、そのおかげで歌碑めぐりのコレクションをはじめました。八重山と沖縄本島の言葉は違うので、面白いです。とてもいい経験でした。



10月、5年に1回沖縄で行われた「第6回世界のウチナーンチュ大会」にはじめて参加することが出来ました。留学中でこんな大きいイベントがあって、とてもラッキーです。オープニングセレモニーで世界中にいるウチナーンチュと三線を弾きました。素晴らしい経験でした。ウチナーンチュの多くの人が集まって、色々な話して、沖縄の文化と交流を続けるためにとても大事だと思います。



11月、沖縄県立博物館・美術館で移民資料展「ウチナーンチュの世越の肝心」というイベントに参加しました。2世から5世まで、世界中からのウチナーンチュの琉球芸能の舞台でした。本当に素晴らしい機会があって、いっぱい練習して、いい勉強になりました。これからも、色んな人と三線を弾きたいです。



学校以外、沖縄に来る前に1つのやりたいことは、沖縄で歌碑巡りのコレクションです。琉球古典と民謡の歌詞だけではなくて、歌碑で作った曲の場所や歴史や気持ちを学びました。例えば、この曲はこんな場所で作った、こんな気持ちで作ったです。沖縄だけしかありませんもので色んなところにまわって勉強ができました。先輩や友達のおかげで、歌碑巡りが出来ました。そして、ブラジルに帰ってきたら、歌詞の意味と気持ちをポルトガル語で書きたいです。興味がある人に伝えたいと思います。



3月4日、さんしんの日に参加する機会がありました。最初、あかいんくの前で演奏しました。そして、読谷で幕開けの舞台にでました。とても感動しました。ブラジルでさんしんの日もやっています。中学生のときから参加しています。沖縄のさんしんの日は素晴らしいので、沖縄からブラジルにいろんなアイデアを持っていきたいです。



琉球古典音楽野村流音楽協会の地方研修に入りました。月に1回があって、はじめて弾いた曲はたくさんありましたので、勉強になりました。そして、地方研修部の発表会に参加する機会があって、先生たちのみなさんにとっても感謝します。

1年間で、人生の勉強もできました。例えば、ひとりぐらしでお金のコントロールをしなければなりませんし、自分で手続きしなければなりませんし、色々な人と色々な意見と暮らしますので人生の勉強になりました。

この1年間は人生の中でいちばん最高の年です。大学でいろんなことを学ぶことができて、舞台にさんかすることがたくさんありましたし、色んな機会がありましたので、色んな人と出会って、とても嬉しいです。

三線の勉強したいことが増えましたので、これからも頑張ります。

県費留学生の機会がありますので、毎年世界中からの沖縄に留学生で来ます。それのおかげで、自分たちの国で沖縄の文化を伝えることができます。

沖縄県庁のみなさん、財団のみなさん、沖縄県立芸術大学琉球芸能専攻の先生たちと生徒たのみなさん、琉球古典音楽野村流音楽協会の先生達のみなさん、親戚のみなさん、友達のみなさん：

いつまでもみなさんに感謝しています。

いっぺーにふえーでーびたん！Agradeço a todos de coração por esta oportunidade! Muito obrigada!

## 沖縄古里

モレノ マリア フロレンシア（アルゼンチン）  
沖縄県立芸術大学

沖縄は祖父母の古里です。やさしくてきれいな島です。ウチナーンチュ子弟等留学生受入事業で祖父母の古里に来ることができました。お祖父さんとお祖母さんの海と空と土地を初めて知りました。お祖父さんとお祖母さんのウチナーグチと三線の音楽が聞こえました。デイゴの花とガジュマルの木が見えました。私は祖父母を知ることができませんでしたが、今私は祖父さんと祖母さんをより近くに感じています。

沖縄へ来て親族に会いました。照屋家と兼城家です。沖縄の家族はとても暖かかったです。

一年間、照屋家のみんなと多くの瞬間を共有することができました。シーミーに行きました。とても大切な経験でした。そして、三線を一緒に弾いたり、子どもたちと遊んだりしました。照屋家はうるま市で色々な文化の活動をいつもしています。ですから、歌やエイサーのパフォーマンスを見ることができました。すばらしい家族です。私はとてもラッキーです。沖縄できれいで大きい家族に会いました。



## 沖縄県立芸術大学

沖縄県立芸術大学で沖縄の伝統的な工芸と日本語を勉強しました。

## 日本語

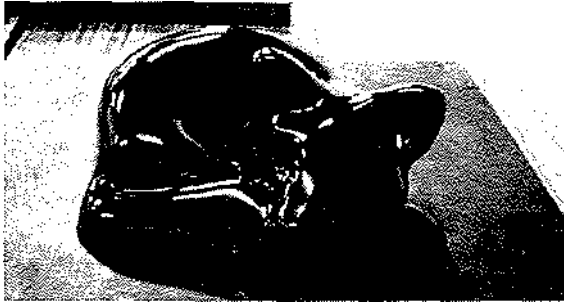
一年間日本語を勉強しました。中川麻美先生に教えていただきました。日本語能力試験のために勉強して、12月に試験を受けました。そして合格することができました。その他にも沖縄の文化と歴史とウチナーグチを勉強しました。日本語の授業のおかげで毎日の会話で話すことができました。それに、工芸の授業の説明を理解するために役に立ちました。

## 工芸

沖縄県立芸術大学には高いレベルの工芸の先生がいます。先生の作品と教え方はとても素晴らしいと思います。沖縄に来たときに、私は日本語が少ししか分かりませんでした。伝統的な芸術は手作りですから、作品を作るために私は先生の作り方を見て、同じようにしました。先生方はとてもやさしかったです。

4月に染めを勉強しました。渡名喜はるみ先生に教えていただきました。私の作品のタイトルは「南の絵」でした。イメージは景色と筆でした。沖縄のびんがたのデザインはとてもおもしろいと思います。自然の物を使います。ですから、私の作品には山と川と花を使いました。作品はアルゼンチンと沖縄をミックスしたものです。

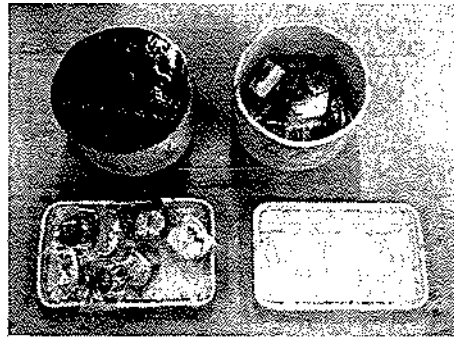




デザインはシンプルな形でした。

5月に漆を習いました。糸数政次先生と當眞茂先生に教えていただきました。琉球漆器はとてもすてきです。私の作品のデザインは眠るきつねでした。きつねは自然の静かなイメージだと思いました。

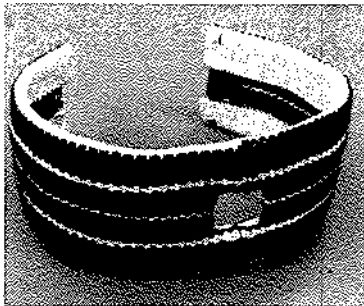
6月に焼き物をしました。山田聡先生が教えてくださいました。ロールのスタンプで作品を作りました。私の作品はお菓子の箱とお皿でした。デザインは動物と葉でした。箱の高さは20cmでした。



7月に織物を勉強しました。花城美弥子先生に教えていただきました。横糸を染色して、縦糸を準備して、織付けをしました。作品を3つ作りました。作品1は横糸染色でした。私は M. グリーン5の GW 色を使って作りました。作品は基本織でした。作品2のタイトルは青い森でした。作品のために、自分のイラストを使いました。赤頭巾ちゃんの物語のイラストでした。物語の様式は北米原住民の文化でした。北米原住民の織







物のデザインをかきました。ですから、織物の作品のアイデアは物語の景色です。赤頭巾ちゃんはおばあちゃんの家へ行くために、青い森をわたりました。使った色は冬の色です。デザインにバランスとコントラストをさがしました。

作品 3 は三線のティーガーでした。デザインは横じまでした。使った色は作品 2 と同じ色でした。三線を作る仲嶺先生は私の三線にティーガーを巻いてくださいました。

毎月工芸の授業のさいしょの日に学生は自分の作品を見せて説明しなければなりませんでした。学生の作品はいろいろなデザインがありました。私はこの日がとてもおもしろかったです。

10 月、専門の授業に漆を選びました。私は漆の勉強を始めたところなので、もっと習いたいと思ったからです。

漆を勉強できるのは日本だけです。それに、国へ帰ったときにアルゼンチンの県人会で新しい工芸を紹介できると思いました。10 月から色々な作品を作る予定でした。一年生と二年生、三年生と授業に参加しました。漆の歴史を知ることができました。日本と琉球の漆の歴史を習いました。前史から現代まで勉強しました。漆の勉強のために、漆の歴史を知るとはとても大切だと思います。漆の方法が分かりやすくなるからです。それと、漆の作り方の授業も受けることができました。漆の会社から大内さんという方が授業へ来て、漆の抽出と過程を説明しました。

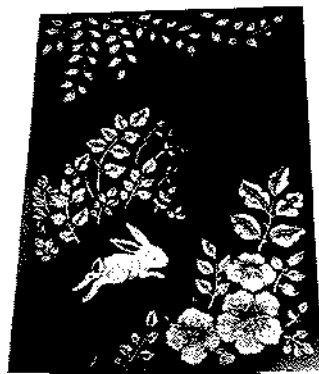
11 月は螺鈿の授業でした。水上修先生が授業をしてくださいました。授業のために、作品のアイデアを描きました。テーマは自然でした。

私のイメージは「満月の夜に動物が月を眺めている」です。漆の授業ではすごい技術をたくさん見ることができました。貝でイメージを作りました。作るために、手板を準備して、貝を切って、漆ではりました。つぎに、漆でぬって、漆を乾かすときに貝の所に漆を出しました。それからイメージが見えました。金箔の貝でイメージのアクセントをかきました。月と葉っぱは金箔でした。



12 月に茶碗とお皿の授業がありました。沖縄の工芸のセンターで千木良先生が茶碗とお皿の作り方を教えてくださいました。千木良先生は学生のデザインのお皿を作りました。漆の授業でお皿は漆で塗らなければなりませんでした。

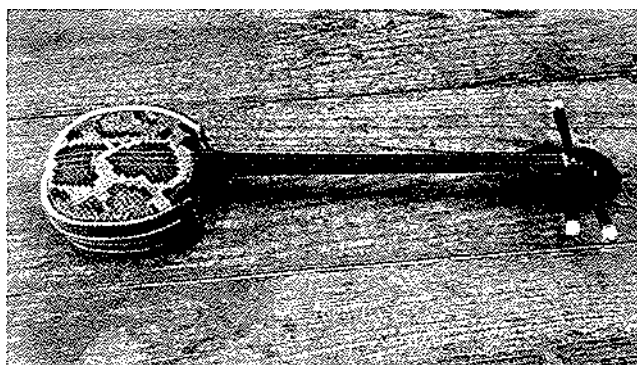
12 月から3月までに沈金と箔絵と密陀絵と堆錦の作品を作りました。沈金と箔絵と密陀絵と堆錦の作品のために、手板を4つ作って、デザインをかきました。作品のテーマは自然でした。シリーズでしたから、作品のイメージは動物と草木でした。鹿ときつねとうさぎをかきました。それから、漆の作品はせんぶ同じテーマにしました。



## 踊りと三線

安座間本流で琉球舞踊を習いました。安座間明美先生に教えていただきました。踊りの稽古で沖縄の音楽も習いました。かじゃで風、からや一節、はちないを習いました。三線も少し習いました。それで、親戚と三線をいっしょに弾きました。

また、ウチナーンチュ大会のグランドフィナーレで三線を弾きました。踊りと三線を通して、沖縄の文化をもっと学ぶことができました。



この一年間に、沖縄の色々な歴史的な所へ行くことができました。沖縄平和祈念資料館では沖縄の戦争について知ることができました。それから、祖父母の歴史も分かりました。どうして祖父母はアルゼンチンへ行きましたか。どうして、私はウチナーンチュ三世ですか。それから、自分のアイデンティティーを考えました。

ウチナーンチュ子弟等留学生としての一年間は私にとって大切な経験でした。祖父母の古里のことを初めて知ったり、沖縄の親戚に会ったり、沖縄の文化を習ったりしました。私はこのような経験ができたことをとても感謝しています。

## 沖縄での長い短い一年間

照屋 ブルーナ ちえり (ブラジル)

沖縄県立芸術大学

照屋ブルーナちえりです。ブラジルで生まれ、育てられた4世です。沖縄県立芸術大学でデザインを学びに来ました。ブラジルでもデザイン専攻の大学生です。

自分のルーツである沖縄、琉球のデザインを学んで、自分の制作で表現するためにウチナーンチュ子弟等留学生のプログラムに応募しました。

沖縄で成人をむかえて、初めての一人暮らしでいろいろな経験をしました。自分で解決したり、責任を持つ大切さに気づきました。母国語のポルトガル語では言葉が通じない場所で、日本語だけではなくて、他の外国人との関わりのために英語、スペイン語の練習にもなって、他の言語を習いたい気持ちも感じました。沖縄で世界のそれぞれの人と出会えて、自分の世界感が広がりました。沖縄県立芸術大学の授業はブラジルのサンパウロ大学と完全に違って、デザインの新しい考え方を経験出来ました。和紙作り、キャラクターとイラストを作ったり、本当の企業のヴィジュアルアイデンティティを新しく考えたりして、自分の国にはない授業を経験出来ました。

後半は工芸の染分野の授業を受けて、沖縄の伝統的な紅型と日本の染方法を学びました。初めて生地で染める実験をして、芸術の中で新しい可能性を見つけました。

県のワークショップに参加して、アイデンティティ研修やグローバルリーダーシップなどのプログラムで若い世代の人達と交流できて、自分と世界の間を考えた。考え直しました。「私は誰ですか」「世界で私の居場所はどこですか」、その質問の答えはまだ見つけていないし、正しい答えはないと思いますが、その機会のおかげで、探し始めました。

一年間で経験と機会が多くありました。家族と友達から離れていて、長かった。しかし、勉強、沖縄での友達を考えたら、短いです。足りなかった分はまたこれからの勉強の動機になります。

4月11日ー5月27日

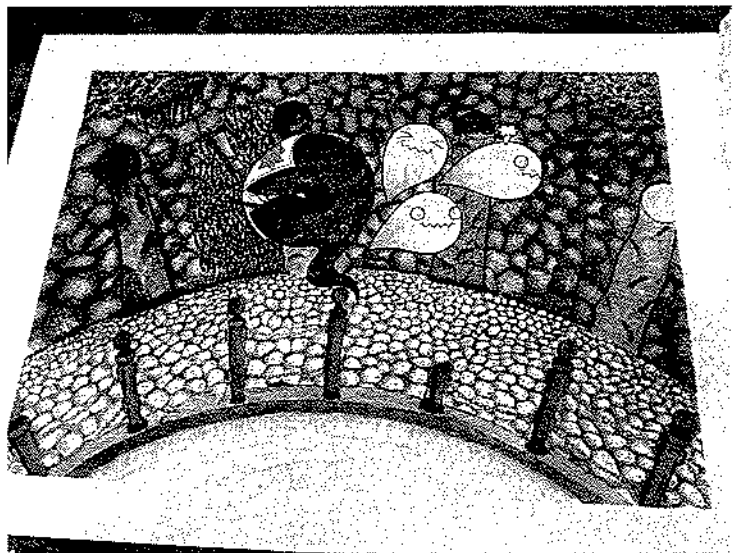
エディトリアルデザイン Ⅰ (紙とイラストレーション)

担当 崎濱先生

和紙作り (安慶名先生)

2週間で紙漉きの授業を受けました。和紙を作るために長い時間がかかります。植物を煮て、冷めてから塵をとります。その後に、きれいにした皮を叩く。細かくした皮を水でかき混ぜて、ねりを加えて、紙を漉きます。水を取るために压榨して、木板に広げて、外で乾かす。乾かしたら、和紙を木板からはがして、完成です。

紙漉き終わって、イラストの授業を始めました。キャラクターの形だけではなくて、その世界観、性格、仲間、ストーリーなども考えて、その世界を紹介する絵を書いた。私が考えたキャラクターは放置された町のおばけです。



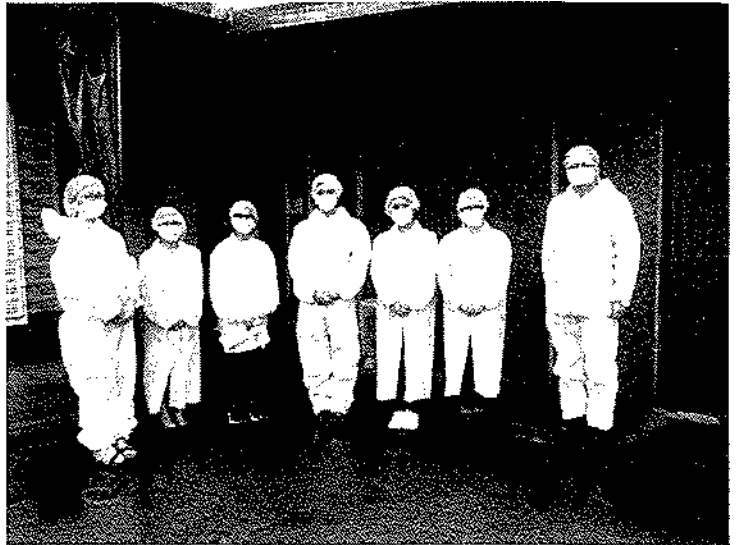
5月30日—7月15日

グラフィックデザイン I (ビジュアル アイデンティティ)

担当 赤嶺先生

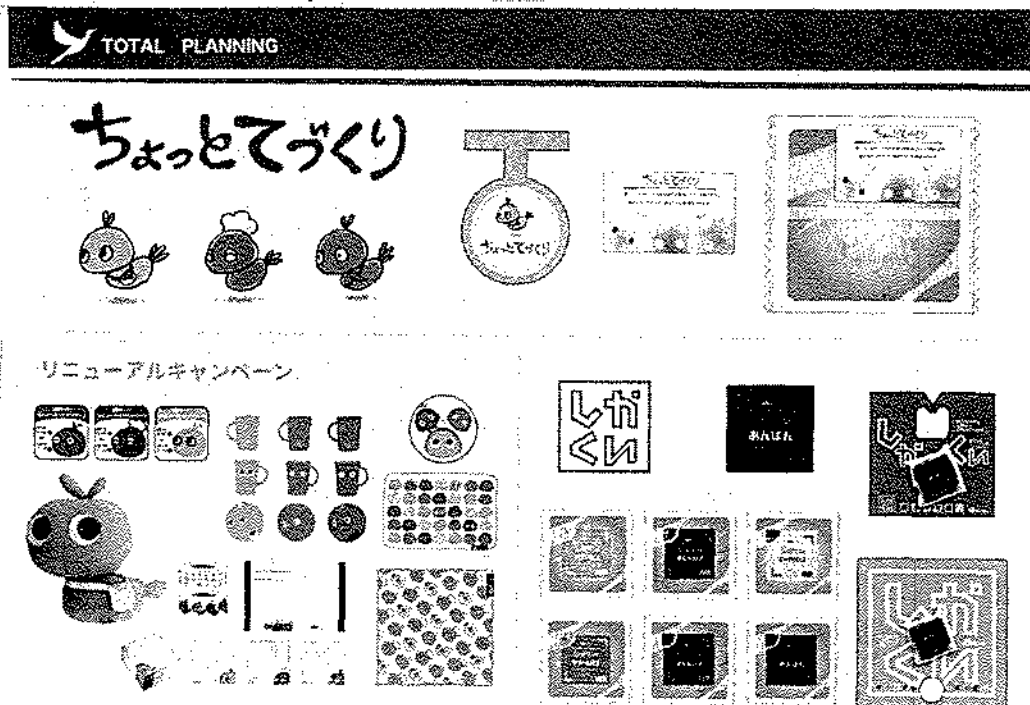
広告 (金城先生)

二つのグループに分けられて、  
沖縄の企業、第一パンさんの VI  
(イメージ、ロゴ、パッケージなど)  
を新しく考える授業だった。第一  
パンの社長の意見を聞いて、新し  
い世代にアピールする目的で、新  
しい企業イメージを作る。



自分のグループは昔のコンセプ

トを守りながら、人気の商品をもっとアピールして、パッケージやキャラクタ  
ーを作りました。

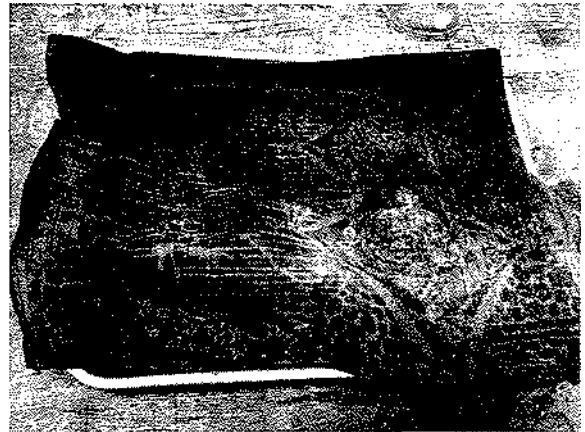
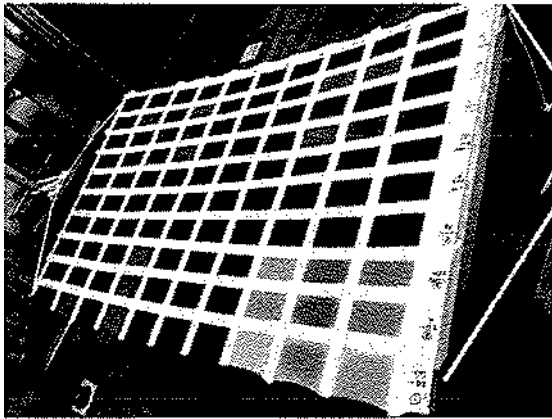


10月3日—10月21日

染色実験

担当 渡名喜先生

生地、染料と顔料の様々な種類の実験。次の作品のための見本を作りました。

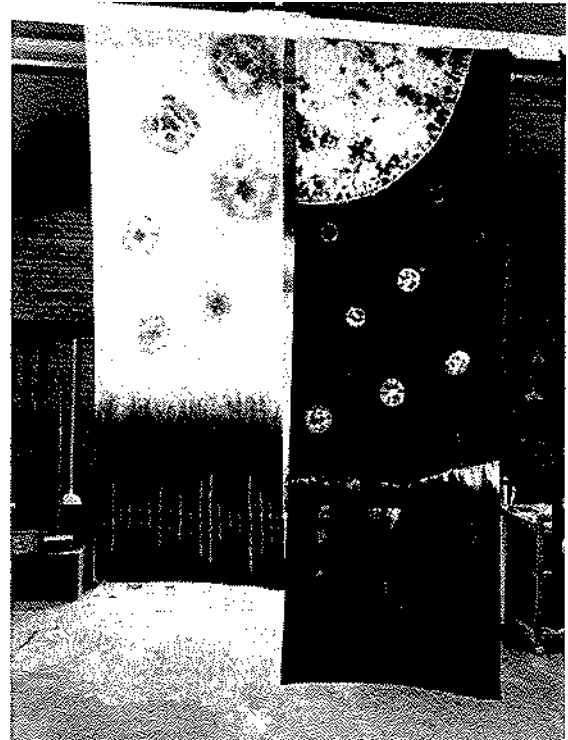


10月24—10月28日

防染法

担当 石塚先生

藍でタペストリーと手ぬぐいを染めた。技術を教えられてから、自由に自分が作りたかったイメージを染めた。染めるときは、藍色の液体に入れる。白い部分は、圧力を使って染まらないようにする。



11月7日—12月5日

古典紅型（筒）

担当 城間弘子先生

道具（筒と刷毛）を作りながら、うちくいを染めました。両面に糊置きと色差しをした。古典紅型ですから、見本を見ながら、作った。



12月5日—1月31日

古典紅型（型）

担当 渡名喜先生 / 名護先生

3メートルの生地で古典紅型の模様を型紙で作る。見本を見ながら、型紙をトレースして、掘ります。見本からもととの色を想像して、自分の作品に合わせます。できるだけ昔の技術をまねした。





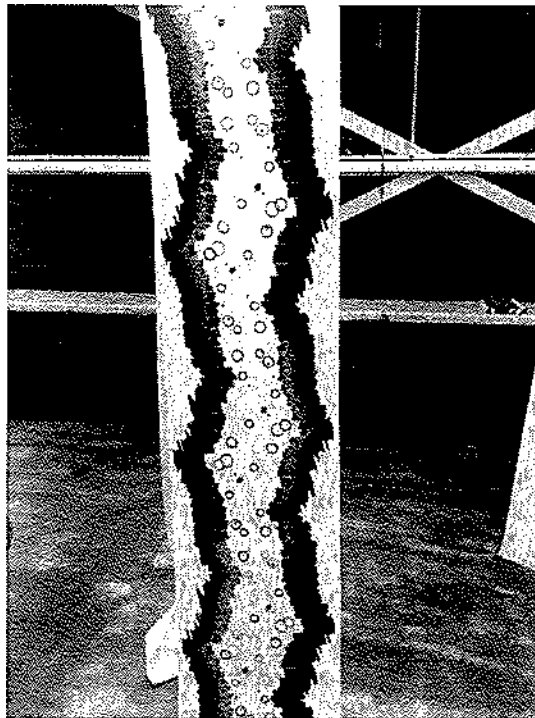


1月23日-1月27日

型紙研究

担当 本田先生

シルクスクリーン。前の作品か何かの物から美しいと思う線、形を見つけて、  
模様にする。



## 沖縄でしか確かめられなかった、自分のルーツ

玉城 上原 美幸（ペルー）

沖縄県立芸術大学

私は玉城上原美幸です。母はペルー人、そして父はアルゼンチン人だからペルーとアルゼンチンの国籍を持っています、でもアルゼンチンに行ったことないので、自分をもっとペルー人だと感じます。初めて沖縄に来たときは6年前、与那原町の研修生でした。そのころの研修は3か月、短い時間で沖縄の歴史や文化に思いを寄せて沖縄にすっかり惚れました。そしてまた今回一年間の研修で来てもっと沖縄の事を深く調べることが出来て本当に嬉しかったです。私はペルーで勉強している専門はグラフィックデザインです。芸術にとっても興味があって、本や写真だけで見た、沖縄だけにある伝統的な芸術を学びたいと思っていて、沖縄県立芸術大学で漆を勉強したいと決めました。

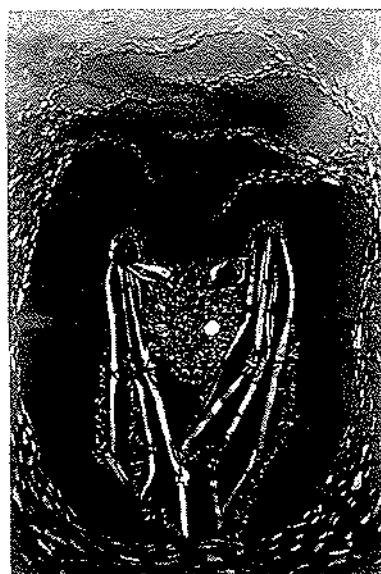


沖縄に着いてから現地の人たちは明るくて仲良くなることが出来ました、一日目からあまりホームシック感じませんでした。さらに、別の県費留学生と初めて会った時はすぐつながりが出来ました。皆バラバラの国から来て、違う言語を使うのに、最初から本当の友情を感じました。皆さんとの交流会、一緒に

観光地を回ったりご飯を食べたり、一緒に写真を撮ったり、たくさんおしゃべりをしたりたくさん思い出ができました。昔から会ってない親戚とまた出会って、そしてアルバム写真を見ながらいっぱい家族の事を調べて、絆がもっと強くなったと感じました。



大学で一番嬉しかったことは、生徒と友達になれたことです。最初はみんながんばって日本語がわからないときは英語で話しかけてくれて、ジェスチャーを交えながら楽しく話すことができました。彼らと話をしていると、ペルーや南米のことに興味があるということがよく分かりました。だからペルーのことを教える機会があって嬉しかったです。一つ一つの授業で作品作って、その作品のプレゼンテーションもありました。人前に立って日本語で話すことはなかなかないので、緊張しました。先生とクラスメートたちが一生懸命聞いてくれて、とても喜びました。沖縄県立芸術大学で工芸の中が染、織物、陶芸と漆があって、最後は漆の専門を選びました。内地も漆がありますが、琉球漆器は沖縄の特色があります。堆錦はその中の一つでした。それとプラス中国から来た螺鈿、沈金、箔絵も大学で学びました。



研修の中に一番印象的な日は慰霊の日でした。平和祈念公園で、資料館や慰霊塔、昔実際に戦争などが起きた場所を見学しました。一番印象に残ったのは資料館で戦争経験者の話を聞いて、今の平和の大切さを知ることができました。沖縄では戦争の時期たくさん苦しんだけど、アメリカを嫌いな気持ちを感じなくて、



戦争は良くないというメッセージを人々から伝えました。アメリカが嫌いな気持ちを引きずってないけど戦争の事は忘れていない。沖縄はそのバランスが出来てすごいと思いました。

それと、この研修の中でとっても良かった体験は沖縄NGOでボランティアをすることでした。NGOで多くの計画に参加出来て非常に素晴らしい経験でした。そこで色々な国の人と出会っていっぱい友達を作ることが出来ました。

研修期間の内に基本的芸術と自分のルーツやアイデンティティーを沖縄の人々からたくさん学びました。その県民の優しさに感謝したくてNGOと出来るだけ力合わせて沖縄の人々に感謝の気持ちを返したかったです。この仲間でもいっぱい知識と経験を交換できて上等でした。NGOのスタッフに感謝しても感謝しきれません。沖縄に戻る機会あればまた協力したいです。

この1年とっても早く感じました。この沖縄で学んだことを胸に刻み、ウチナーンチュのルーツを持っているペルー人に伝えたいです。母国に帰ったら皆さんにぜひ沖縄に行ってくださいと言いたいです。この研修の間にさまざまな場所を訪れたけど、沖縄の中で一番素晴らしかったのは沖縄の住民でした。心が明るくて、気さくな人が多いと認識出来ました。今年の研修の時期でウチナーンチュ大会に行って、色々なイベントに参加出来て、世界のウチナーンチュと出会って、すごく恵まれたと思いました。ウチナーンチュ大会の間、自分の

ルーツや文化、歴史を毎日ぐらい見聞き出来て、とても大切な時間でした。絶対忘れないです。



この研修の機会をくださった皆さんに心から感謝します。これからペルーと沖縄の架け橋を続けたいです。去年天国に行ったおじいちゃんとおばあちゃん、沖縄のルーツを守って、そして家族に伝えてくれてありがとう。沖縄に着いたとき大変助けてくれた親戚の皆さんに感謝します。6年前お世話になった与那原町のおかげで私の初めて沖縄に興味と愛を起こしてくれてありがとうございます。大学の先生たちとクラスメートの皆さん、暖かい表情と大変わかりやすい内容で、とても素晴らしい研修を受ける事が出来ました。工芸の技術はペルーと違い、大変難しかったけど、とても貴重な経験でした。帰国後生徒や仲間に沖縄に学んだ技術を伝えたいです。大変お世話になりました、ありがとうございました。そして最後に、この一年の研修でさまざまな形でご支援とご協力して下さった全ての方々のおかげです。深く感謝申し上げます。皆さんにまた今度、沖縄か、ペルーか、世界のどこかで会うのは楽しみにしています。

## これからもよろしくお願ひします

安座間 上地 カテリネ 直未（ペルー）

沖繩国際大学

「皆さん、故郷と言へば、どんなところを思ひますか。私にとって『故郷』というのは『いつでも帰れる場所』だと思ひます。」

大学で同じ留学生とスピーチコンテストを行ひました。この文で私のスピーチは始まり中級の中で3位になりました。一年間の留学の経験をまとめるのは難しいですが、一般的に3つのテーマに分けていきます。



### 沖繩国際大学・授業・国際交流サークル

「はいたい、ちゅうがなびら。わんねーアザマナオミやいびん。ゆたしくうにげーさびら」ということは日本・沖繩事情の授業で学びました。もちろん、色々なことを勉強しましたが、一年間沖繩で過ごしてましたので今回は少し基本的な学んだうちな一ぐちで始めましようかな、と思ひました。沖繩国際大学では一年間、日本事情、日本語会話、日本語文法と日本語作文、そして後期に聴講で韓国語 II を受けました。それに、たまにフェルナンド先生のスペイン語の授業に参加しました。



まず、日本語の授業で色々な国の留学生と勉強して、ネパール、ベトナム、中国、マカオ、台湾、韓国、インドネシアなどの人たちと一緒に日本語を学びました。個人的にスペイン語を喋る人がいな

くて、英語や日本語で喋ってみるしかありませんでしたので、日本語にだんだん慣れました。韓国語の授業は日本人と勉強しましたので外国語は日本語で学ぶことになりました。そのためにまず日本語の単語や漢字を学ばなければなりませんでしたが、いつも携帯の辞書を使いました。しかし、そのおかげで新しい言葉も習うことができました。そして、とても優しい人々が友達になってくれて日本語も韓国語も練習できるようになって嬉しいです。それに、フェルナンド先生の授業に前期も後期もたまに参加しましたから前に習えなかったまたは知らなかったことを学びました。基本的な言葉や自分の授業でよく使う言葉を習って、スペイン語の授業でも日本語を勉強することができました。

国際交流サークルも入って色々な人たちと出会えて良かったです。性格や文化や出身などに構わずに素敵な絆を作って人生の世界中繋がりができたと思って、色々なことを教えたり話したりして言語や文化や習慣などについて交流ができた



と思います。そして、色々な人と会えたから自分の考え方も味方も広がるようになったと思っています。

#### 生活・親戚・友達



沖縄で一人暮らしの生活ができるようになりましたのは大切な親戚と友達のおかげです。

いつも私のことを思って心配してくれて色々な手続きや細かいことがあったときも病気がなったときも「なんかあったら連絡してね!」と言ってくれて本当にありがたいです。

初めての一人暮らしだったので色々なところで成長できたと思います。自分で掃除や整理や料理などをしなければなりませんので、少しずつ新しい能力や方法を習いました。そして、自分の国ではないので、沖縄での生活の問題については親戚や友達に聞いてみて色々教えてくれました。大切な人々がいるから色々なことをだんだんできるようになれたと思います。

一年間一人暮らしでしたのに、親戚と友達のおかげで一人であることというのは全く感じませんでした。沖縄に住んでいる間に親戚と会う機会が少なかったと思いますが、色々なイベントや場所へ連れて行ってくれたりして、会えたときに私に対して必ず笑顔で優しくしてくれたので、初めて会っていても、何年間後に会っていても、普通に皆といつも会っているように感じました。そして、近くに住んでいる留学生と一緒に勉強したり、料理を作ったり、遊びに行ったり、誕生日パーティーをしたりして、新しい家族ができました。



### 世界中のウチナンチュと交流 ・アイデンティティ

夏休みのときごろから色々な国の市町村の研修生がどんどん沖縄に来て、たくさん新しい出会いがありました。ほとんどは3ヶ月くらい沖縄で日本語、文化、そして芸術を学びます。それぞれの国へ帰ってから様々なイベントでは学んだことを紹介したりパフォーマンスをしたりします。私たちが帰ってから色々なイベントで元研修生と一緒に参加しますので、沖縄で出会えてとても良





かったです。自国を構わずにこの繋がりをできたからこそ、将来に私たちに対する大切な文化と歴史を守るために、みんなと協力して頑張っていきたいとも思います。

ペルーで、もちろん私の家族が沖縄から移民しましたので周りと比べたら「確かに日系人ですねー」と思って、ペルー人や沖縄人や日本人などというアイデンティティについてあまり考えませんでした。しかし、沖縄に来てから、自己紹介したときに「ペルーから来ました」と言ったら皆がびっくりしました。見た目日本人に似ていますのでよく説明していましたが、この研修のおかげでウチナンチュという気持ちが強く



①安座間直未さん(24)  
②4世③宜野湾市

くなりました。それで、そのうち「ペルー日系ウチナンチュの4世です」という自己紹介になりました。この持っている三つの文化や習慣については少し知っているのでも色々な国の人と交流ができるようになりました。そして、去年の10月にとても特別なイベントに行って「世界若者ウチナンチュ大会」と「世界ウチナンチュ大会」に参加しました。10月に世界中のウチナンチュにペルーの文化を紹介することができて、他の国のことも習うことができ、皆と一緒にウチナンチュという気持ちが強くなりました。

### 「ニフェーデービル」

沖縄県の皆さん、財団の皆さん、沖縄国際大学の先生方と国際交流サークルの皆様、ペルー沖縄県人会、そして大切な家族・親戚・友達、一年間大変お世話になりました。皆様のおかげでこの研修はとても良かったです。心から感謝しています。

「故郷」というのはついに意味を理解できました。私に対して「おかえり」と言ってくれて、そして色々な方々から愛されて心から感謝しています。来日前、一年間留学するのは長いと思っていましたが、大変早く過ぎ気づいたらそろそろ終わります。帰国するのは悲しいですが、選ばれてくれたのはとてもラッキーで嬉しくて、こんな経験を忘れられません。

それでは、行って来ます！

## 学びと吸収の一年間

安里 直也（ボリビア）

沖縄国際大学・オリオンビール(株)名護工場

私は2001年に初めて沖縄を訪れましたが、「沖縄」に対しての特別な想いなどはなく、ただただ観光地を巡ったという思い出にすぎませんでした。あれから16年、沖縄にルーツを持っていることに気づき、海外に住むウチナーンチュとしてのアイデンティティーを誇りに想うようになり、ボリビアで様々な文化継承活動を行ってきました。

大学を卒業し大人になってからは文化継承活動だけではなく新たな一歩として大学で学んだ知識を活かし、仕事やビジネスを通してボリビアのウチナー社会の発展に繋がりたいと思っていました。ルーツで憧れの沖縄で実際に濃い沖縄の文化を感じたい・学びたい、そして大学で学んだ知識や技術のスキルを上げたいと思い留学することを決心しました。

初めて沖縄を訪れた時とは景色も気持ちもまったく違い「沖縄」を欲している自分にとって、全てが新鮮で毎日が充実しておりあっという間に過ぎていきました。また、沢山のイベントにも参加することができ、一年間全てを綴ろうとするのであれば聖書並に長くなりかねないくらいの一年間でした。

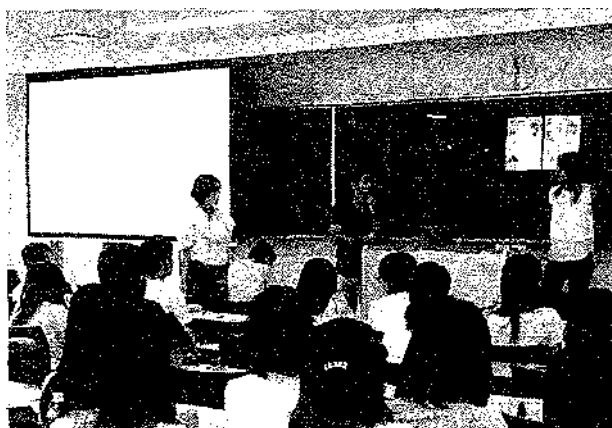
## 沖縄国際大学

半年間は沖縄国際大学で日本についてそして日本語の勉強を行いました。言語に関しては何一つ不自由のないものだと思っていましたが、10年くらい日本語の勉強をしていなかった自分にとって漢字と言う山が立ちばかり自分の日本語力の現在地を知ることになりつつ、日本の大学で勉強するということが自体初めての経験だったので、校内の雰囲気・授業の仕方なども学びになりました。

また、日本事情（宗教・食・ポップカルチャー）なども学んだことで海外育ちの自分にとって日本という国を理解するにあたってとてもわかりやすい説明を受け、一年間生活していくために必要不可欠な勉強でした。

それと同時に沖縄事情という課題も勉強し、海外には学べない、または学ぶ機会がない

沖縄県の地理、年間を通しての伝統行事とその意味、伝統芸能の種類や琉球時代の歴史の勉強をしました。ボリビアにいと沖縄が南・中・北部に分かれていることも知りませんでしたし、聞いたことはあっても実際にはどういう意味



なのか分からないような伝統行事について学ぶことができたので、沖縄を好きになる・理解することにおいて、そして沖縄の血が流れている自分が知っておくべきことでした。

## オリオンビール(株)名護工場

10月からは今回の留学で一番楽しみにしており、一番の目的でもあったオリオンビール(株)名護工場での技術研修をさせていただきました。

私はIE(インダストリアル・エンジニアリング)を勉強したので生産資源の改善に関する総合的工学技術のスキルを上げたいと思っていました。



実際に現場に入りビール製造の工程やそれに伴う安全衛生とその改善に関する知識と技術を学びました。総務課から始まり、品質保証管理部、製造部の醸造課、パッケージング課、エンジニアリング課、最後は営業まで、様々な部で色々なことを勉強しました。

最初の総務課では工場の安全衛生と職場環境整備の活動を行いました。作業場を回り適切な環境にあるか騒音・温度・照明を測定し管理する作業や廃棄物の処理の仕方などを学びました。



品質管理保証部では、ビールの化学分析や原料の分析、微生物の検査方法や手順、ビールの試醸も勉強し、日本の食品会社の製品に対する安全や衛生面がすごく細かく行われており、まだまだ大雑把なところがあるボリビアが見習うべきところだなと思いました。

製造部では醸造講座を受け、現場ではビールができるまでの工程に沿って研修し、現場では設備の説明や確認作業などを行いました。また、パッケージング課では安全教育も受け作業をする際に気をつけるべき事を学びました。安全対策があまり徹底されていないボリビアで育った自分からすると、小さく気にならないようなこともまず安全を気にする感覚が鍛えられ同時に作業場に潜んでいる様々な危険を把握する力もつきました。



同じくエンジニアリング課での研修は工場には欠かせない動力の設備の説明や管理の方法を学び、製造に必要なエネルギーの管理やエネルギーをいかに効率よく使うかなどを学びました。ビールの製造工程を勉強できたことはもちろんのこと非常に勉強になりましたが、それ以上に作業の効率を向上させるための対策、取り組みや活動がとても参考になり、ビール会社だけにとどまらずどの国の会社においても導入でき、生産業の改善に活用できるものでした。



ボリビアのウチナンチュが経営している会社でもまだまだこういった面での取り組みは行われていませんが、いかにこれが効率を上げるかということをも風土や人柄を理解し人・設備・エネルギーなどの効率化に繋げることができると思いました。

私はとても縁があり、オリオンビール(株)の代表取締役社長の嘉手苺義男様がボリビアを二回も訪問したことがあり、その当時に自分の祖父に会ったことがありお世話になったとのことでした。お陰様で快く研修を受け入れて下さり、会社の皆様には大変お世話になり、自分のこれからの人生において必要であるう事をたくさん気にかけていただき教えていただきました。

### ウチナンチュ大会

研修とは別に、留学期間中に第6回ウチナンチュ大会が開催され、5年に一度の大会に参加することもできました。映像でしか見たことがなかったウチナンチュ大会ですが、パレード、開会式、閉会式などに参加し、世界中のウチナンチュが沖縄に帰ってきて出会いと再会を目の当たりにし、改めてウチナンチュ子弟、ウチナンチュであることのすごさを実感しました。

同じタイミングで世界若者ウチナンチュ大会にも参加し、第1回若者大会から参加していた自分にとって、出会った仲間たちと故郷沖縄で再会できた事はすごく意味のあることであったと同時に、自分たちの世代がこれからそれぞれ住んでいる国のウチナー社会を担って行くんだという気持ちになれた大会でした。

それぞれ違う国に住んでいて、それぞれのウチナー社会が抱える問題や課題を、同世代の若者と繋がれた事で共有することができ、どのような活動を行っているのかを知って、伝えて、参考にすることができ、お互いが刺激を受け合う大会になりました。

生まれも育ちも沖縄ではない海外のウチナンチュからすると、「沖縄」は夢のような世界で、そんなところで一年間も留学で来ることができたのは自分の人生において忘れられない、そして今後の活動に繋がる貴重な時間となりました。この留學生活の毎日毎日が学びとなり、帰国後はこの経験を同世代に伝えていきたいと思います。

全てが学びと吸収の一年間、沖縄で学んだ新しい考え方、沖縄で高め育んだ沖縄を想う気持ちで、ボリビアのウチナー社会の発展と沖縄との交流に精一杯務めることで、沖縄でお世話になった数え切れない人たちへの恩返しにしたいと思います。



## オキナワと沖縄の架け橋

比嘉 成美（ボリビア）

沖縄国際大学・金秀商事株式会社

私は、ボリビア出身の沖縄県系3世です。

コロニアオキナワ移住地という場所で生まれ育ちました。祖父母が戦後移民して築き上げた移住地では、日本語や方言が日常生活で飛び交い、食事の時はもちろん沖縄料理、家には仏壇があり、祭りの日には三線とエイサーの太鼓の音が聞こえてきます。そんな環境で育った私は、自分のアイデンティティーについて深く考えることはありませんでした。なぜなら、それが私にとっての「沖縄」だったからです。

しかし、それを変えたきっかけとなったのが、2015年フィリピンで開催された第4回世界若者ウチナンチュ大会に参加した事でした。自分はウチナンチュだという強い意識を持っていたはずなのに、私と同年代の沖縄出身者、または世界各国の沖縄県系人と関わることで、自分の知らない「沖縄」がまだまだあることに気づいたのです。

帰国後、祖父母の故郷である沖縄についてもっと知りたい、行ってみたい、そして何を感じ、どんな発見があるのか自分の目で確かめたいという強い思いが芽生えてきました。

そして、県費留学生として沖縄に到着した日、大きな夢が叶った瞬間でした。でも、私にとってそれはゴールではなく、新しい挑戦が始まる時でもありました。着いた日からカウントダウンは始まっていて、限られた時間でどれだけ沢山の事を学べるか、自分にしかできないことは何かを考えながらの留學生活が始まりました。

## 県費留学の内容

- 前期：沖縄国際大学で外国人科目等履修生として勉強する
- 後期：金秀グループの金秀商事株式会社で企業研修をする

### 前期（4月～8月）



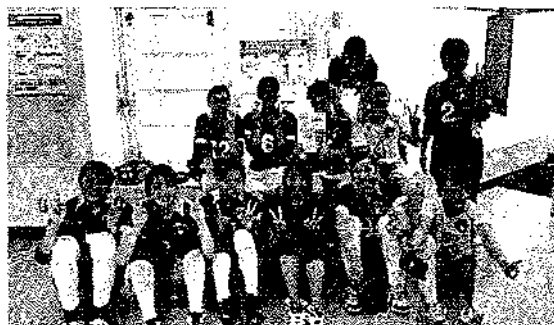
沖縄に着いて二日目から大学生活が始まりました。私は沖縄事情、日本事情という授業を海外から来た留学生達と一緒に受けました。そのことで沖縄について学ぶだけでなく、ネパール、中国、ベトナムなど、他にも色々な国や文化について勉強することができました。留学生たちはアルバイトをしながらも、必死に日本語を学んでいました。その積極的な姿勢を見て衝撃を受けたと同時に、

私も頑張らないと！と勇気づけられたことを覚えています。

また、必修の授業以外にも聴講生として沖縄の歴史、地理、文学について学びました。先生方の講義に参加することで、テレビを見たり、話を聞いたりするだけでは分からなかった沖縄を知ることができました。

そしてボリビアの大学にはない部活動にも参加することができました。やはり、沖縄の大学のバレーはレベルが高く、ハードな練習に着いていくのに必死でしたが、大学で出会った新しい友達とボールを追いかけている時間はとても楽しかったです。

その他にも体育祭や大学祭など、ボリビアではできない貴重な体験を満喫することができました。留学生として大学には通っていましたが、地元の学生達と変わらない大学生活を送る事ができたのは、



こうした課外活動等で出会った友達のお陰です。

沖縄国際大学で過ごした、最高に楽しかった4ヵ月間はあっという間に過ぎて行きました。

#### 後期（10月～2月）

夏休みが終わり、10月からは企業研修が始まりました。私はアルバイトをした経験もなく、社会に足を踏み入れることは初めての経験だったので、とても緊張していたことを覚えています。私はボリビアの大学で経営学を専攻しています。

金秀グループは建築、鉄工場、リゾートホテルやゴルフ場など、様々な分野を経営している大きな企業なので、とても興味がありました。

私は、金秀商事株式会社で食品加工と物流について研修をさせて頂くことになり、スーパー、豆腐工場、サポートセンターの3か所を5ヵ月の間転々と回りました。

#### 1) スーパー（10月～12月）

レジ、フロア、総菜、青果、鮮魚、精肉、ベーカリーなど、色々な部署を回りました。中でも一番難しかったのがレジです。レジはスーパーの顔であり、お客様と直接触れ合うことができるお仕事なので、接客を一番大事にしなければなりません。ボリビアでは声を出して「いらっしやいませ」、「またお越しくださいませ」、など、声を高く上げて接客をすることがないため、慣れるのにとっても時間がかかりましたが、そのお陰で日本ならではのおもてなし精神や、働いていく中で一番大切なマナーを身につけることができました。

## 2) 豆腐工場（1月）

沖縄の島豆腐の歴史や豆腐の作り方を習いました。金秀では島豆腐、ゆし豆腐、揚げ豆腐など、様々な種類の豆腐を作っています。夏と冬場では豆腐を作るための原料も異なり、季節によって豆腐の生産量も違うことを初めて知りました。



## 3) サポートセンター（2月）

店舗の経営をどのように行っているのかを見ることができました。県内の約60店舗の運営、4千人もの従業員の動きなど、プログラムを使って管理していました。また、研修が終わる前には店舗巡りをしました。セルフレジを取り入れたスーパー、お土産コーナーやイトインコーナーがあるスーパー、コンビニに似たファストストアなど、色々な店舗を見学することができました。



5ヵ月間に渡る企業研修では、沖縄の企業の在り方や動き方、またボリビアとは少し違った仕組みなども見られてとても勉強になりました。右も左も分からなかった私を、企業の皆様は研修生としてではなく、同じ仲間として接して下さいました。

今でもすごく印象に残っていることは、研修先で仲良くなったおじちゃんや、おばちゃん達の優しさです。私の為にお弁当を作ってくれたり、時には送り迎えもしてくれたり、娘や

孫の様に可愛がってくれたことは一生忘れません。こんなに温かい人達に囲まれて仕事をする事ができ、私は幸せです。心から感謝しています。

私は 大学に通ったり、企業研修をしていく中で一つ気づいたことがありました。

それは、本場沖縄では移民の歴史や、世界各国にいるウチナーンチュのことがあまり知られていないということです。もっと世界中にいるウチナーンチュのことを知ってほしいという思いが芽生えてきた私は、「自分のやるべきこともしっかりこなしながら、ボリビアやコロニア沖縄移住地のことを沢山のの人に伝えて、ウチナーネットワークを広げたい」という目標ができました。

その方法として、大学ではゼミや授業でプレゼンテーションを行い、また、出前授業を通して小学校へ出向くなど移民の歴史やコロニアオキナワについてお話ししました。

人前で話すことが苦手で、自分から進んで何かを伝えるということは初めての経験でしたが、「伝えたい」という気持ちの方が大きかったので、自分から一歩踏み出し、心を開く努力をしました。そのお陰で沢山の人が興味を持ってくれて、また皆も沖縄について色々教えて下さいました。この活動を通して、私自身のより大きな学びに変えることができたと思います。

#### 第6回世界のウチナーンチュ大会

とてもラッキーなことに、今回の県費留学とかぶっていた最大イベント、2016年10月に開催された第6回世界のウチナーンチュ大会に参加することができました。大切な家族や友達と、祖父母の故郷である沖縄で再会した時は、



言葉では言い表せない感動を味わいました。移民から何十年、何百年経った今も沖縄を愛し続け、文化や歴史を守ってきた祖父母や移民者達、また、それを受け継いできた方々への感謝の気持ちが溢れ出てきました。

「いざ行かん、吾等の家は五大洲」

移民の父と呼ばれる當山久三の、この言葉の意味を強く感じた瞬間でした。

またそれだけでなく、私と同じ日系人の方々が沖縄や世界各国で活躍している姿も間近で見ることができ、大きな刺激と勇気をもらいました。世界のウチナーンチュ大会に参加したことで、私も沖縄と世界のウチナーンチュの架け橋となり、今後も活動して行きたいと決心しました。

#### 挑戦・出会い・感謝

長いようで短かった1年を振り返ってみると、着いた日から、帰る日まで、毎日が挑戦でした。挑戦することで、沢山の出会いと再会がありました。

「またいつでも、沖縄に戻っておいで」

それは出会った皆がお別れをするときに必ず言ってくれた言葉です。私はその言葉を耳にする度、他の場所にはない暖かさ、“いちゃりばちよーでー”を感じました。今後も「おかえり」、「ただいま」と言い合えるこの関係を大切にしていきたいです。

祖父母の故郷である沖縄で過ごして感じたこと。それは、

私には居場所がある、“帰る場所”があるということです。

大学や研修先で出会った方々、親戚の方々、元ボリビア派遣教師の先生方、世界若者ウチナーンチュ連合会のメンバーなど、沢山の人の支えられて私の沖縄留学は成り立っていました。

これからは、この県費留学を通して学んだこと、特に繋がり大切さ、次世代へ繋ぐことの大切さを、より多くの人達に伝えて行くことが私の役割だと思っています。

生まれ育った場所は南米ボリビアでも、ウチナーンチュのゆいまーる精神や肝心を受け継いで、コロニアの発展に繋がる活動をし、今度は私が、ボリビアに皆の居場所を作ります。

それが、私が沖縄の皆へできる精一杯の恩返しだと思います。

「もう一つのオキナワへようこそ！」と笑顔で迎えらるる日を夢見て。



## 「沖縄、にふえーで一びる」

屋良 良子（ポリビア）

琉球大学

「イチャリバチョーデー」。このウチナーことわざ（格言）の意味が沖縄に来て初めてわかりました。沖縄に留学できることがわかったとき、大変うれしかったです。私はポリビアの日系人です。父は子供の頃の沖縄の思い出を私に教えてくれたので、私は知らない沖縄の事が自然と好きになって育ってきました。しかし、初めて沖縄に来るときは、少しこわかったです。日本語もうまく話せなくて、沖縄の事もあまり知らなくて、沖縄で友達や知っている人もいなくて、不安な気持ちでいました。しかし、沖縄に着いてからは、その気持ちがどんどんなくなりました。初めて会った親戚の人たち、沖縄県国際交流・人材育成財団の皆様、沖縄県庁の皆様、WYUA のメンバーの方々、アイデンティティ研修のスタッフの方々、琉球大学の先生と友人たち、ウチナーンチュの皆さんと友達の親切のおかげで、だんだんと安心できるようになりました。

私が沖縄に来た目的にはいろいろありました。父の故郷を知りたかったこと、日本語を学んで話せるようになること、沖縄の文化、歴史、生活を学びたいこと、などです。時々、この目的を振り返って「日本語難しい、無理、良子にはできないさー」と考えたりしましたが、「でも、難しいからこそ、もっとがんばろうよ」と、自分からまたすぐ答えが返ってきたりしながら、頑張ってきました。

一年間の留学の間にいろいろな経験や体験ができました。



琉球大学で日本語の勉強をしました。必修の授業は日本語の聴解、読解、作文の授業でした。それ以外にも自由に、興味がある授業も受けられました。

ある授業では、日本の現状のニュースを聞いたり、読んだり、クラスメートと一緒に議論をして日本と日本語の勉強をしました。ビジネス日本語の授業も受けて、敬語の勉強をしました。スペイン語では敬語がないので、敬語のことを知ったときはとても驚きました。他には「沖縄事情」という授業も受けました。この授業で沖縄の歴史や文化を学ぶことができました。琉球王国から沖縄県へどのように変わっ

ていったのかという歴史を中心に、沖縄戦や沖縄の文化を学びました。もちろん、本を読んだりしても歴史や文化の勉強はできますが、実際に見学や体験もしながら沖縄のことを学ぶことはとても貴重な経験でした。沖縄戦についての授業や見学で、その当時の人々の苦しさを知ったとき、心が震えました。



沖縄戦について、糸数アブチラガマと平和祈念公園に見学に行きました。アブチラガマに入ったとき、涙がこぼれました。こんなに暗くて、つらい場所、人が住めるような場所ではないところで、何週間も沖縄県民が命を守るためにい続けなければならなかったということは、大変悲しいことでした。他にも、生け花、ぶくぶく茶、琴の演奏などの体験もできました。



琉球大学の三線サークルに参加したとき、沖縄で初めて三線を触ることができました。半年間、毎週木曜日に三線サークルに通って、楽しい時間を過ごしながら、基本的な三線の弾き方を学びました。琉球大学の「留学生まつり」では、そのサークルの友人たちと一緒に、演奏をしました。ドキドキしましたが、うまくできました。とてもいい思い出です。

「ウチナーンチュ子弟等留学生受入事業」の中でも、さまざまなプログラムに参加しました。

まず一つ目は「アイデンティティ研修」でした。アイデンティティ研修では、このような質問がでました。

「あなたは何人ですか？」

私はウチナーンチュかな？ボリビア人なのかな？日系人かな？本当に答えに迷いました。しかし、沖縄の生活とボリビアの生活、両親のルーツも振り返ってみて、分かりました。私は「ボリビアのウチナーンチュ日系人」です。

6月23日、沖縄県では慰霊の日があります。その日には、ウチナーンチュ子弟等留学生のプログラムで平和祈念公園に行きました。平和祈念資料館で沖縄戦

の歴史資料を見て、本当に戦争の痛みの感覚がわかりました。沖縄の大学生の意見も聞くことができました。彼らは沖縄戦が起きたのはアメリカのせいだけじゃないと思っているようです。そして、平和や戦争について、いろいろな話が出ました。

平和は自分から始まるものです。

平和というものは、「何も問題が起こらない生活」なのではなくて、「生活に問題あれば、その問題を良い方向に向けて解決していく努力」というものだとも思います。

そして、このような議論の中で、沖縄の言葉、「命どう宝」を覚えました。

私は、ボリビアをはじめ、海外の日系の人と日系ではない人にも、沖縄戦とその戦争の結果がどのように悲しいものであるか、私が知っているかぎりのことを伝えていきたいです。私が平和の意味や重要性がわかったように、みんなにも分かってもらえるように考え、努力し、行動していきたいです。

9月には伊江島に行きました。民泊をしながら伊江島の事情や経済活動を学びました。沖縄の人達は沖縄の現状をよりよくするために、毎日一生懸命働いて頑張っています。



第44回友愛キャンプに参加しました。とても良い体験になりました。兵庫と沖縄がなぜつながりが強いのか、わかりました。沖縄戦争の頃から強い絆があります。島田叡知事についても学びました。

夏の友愛キャンプは、9月に沖

縄県で行なわれました。首里城公園、平和祈念公園、アブチラガマを見学して歴史の勉強をしました。

冬の友愛キャンプは2月に兵庫県で行われました。県立兵庫高等学校、コウノトリの郷公園、フラワーセンター友愛などを見学しました。生まれてから私の初めての雪でした。



10月には沖縄県で2つの大きな大会が行われました。「第5回若者ウチナンチュ大会」と「第6回世界のウチナンチュ大会」です。両方に参加できて、嬉しかったです。

若者ウチナンチュ大会で沖縄のウチナンチュと海外ウチナンチュが仲良く3日間楽しみながら過ごしました。世界のウチナンチュ大会は国際通りでパレードを行いました。14ヶ国から人々がこの大きなイベントに参加し、パレードの日、私は泣くほど嬉しかったです。沖縄県民が国際通りの歩道に並んで、手を振りながら、握手をしながら知らない海外のウチナンチュに「おかえり」「メンソーレ」と歓迎してくれて、とても幸せなことだと感じました。やはりウチナンチュと言えば、心優しくて、暖かい人たちだと思いました。

パレードでは、同じ国出身のウチナンチュたちが一緒に3時間ほど、国際通

りを歩きながら、生まれた国の曲や踊りを披露しました。

大会の最後は「グランドフィナーレ」で幕を閉じました。BEGIN と DIAMANTES などのウチナーンチュのバンド、歌手のコンサートを楽しみました。



11月、JICA 祭りに参加しました。60年以上前の沖縄からポリビアへの移民の歴史を発表しました。ウチナーンチュ子弟等留学生のみんなで発表をしました。移民の歴史を知っている人が多いのに驚きました。

12月には、ウチナーネットワーク大合宿に参加しました。2日間、中学生、高校生、大学生、研修生などいろいろな方と交流事業ができました。「世界のウチナーンチュの日」の講演を聞いて、グループディスカッションを行いました。

今後についてですが、もしポリビアで JICA 祭りのようなイベントがあれば、是非参加したいと思います。ポリビアの人たちに沖縄やウチナーンチュの移民のことを知らせたいと思います。そして、第6回若者ウチナーンチュ大会と第7回世界のウチナーンチュ大会に参加する予定です。沖縄とポリビアの架け橋となり、さらに強いネットワークを作れるように、貢献したいです。

1年間、大変お世話になりました。

「沖縄、にふえーで一びる」

## 移民文化を終始する沖縄での学生生活を振り返る

廖 立南（中国）

琉球大学

いよいよ一年が終わります。時間があっという間に過ぎたことを県費留学生の皆は共感しているはず。自分の故郷への帰りたい気持ちを持っている一方、沖縄に対する懐かしい気持ちもいっぱい持っています。振り返ると、離れたくないなと思うほどです。



私は仕事の GAP YEAR として、沖縄に来た最初、沖縄の移民たちと一緒に過ごす一年だと分からなかったです。初回の皆との集まりはまるで昨日のようです。その日の前日に同じ琉大で勉強している良子は私の部屋に挨拶に来て、一緒に



集まりに行く約束しました。その時から、初めてポリビアという国の日本語の発音を覚えられました。皆と集合後、ブラジル、ペルー、アルゼンチン、アメリカ、台湾から来た人もいと初めてわかりました。県費とは

どのような団体だろうか戸惑ってました。来る前に想像していた身の回りは日本人か外国人留学生であることと全く違って、日系人という人たちは私にとってこの一年の留學生活の中で一番付き合ひの多いことを意識し始めました。

琉球大学で専門の観光産業経営の授業以外に沖縄事情という共通教育科目も



取っています。その授業で沖縄に関する地理、天候、歴史、文化、食生活などの方面を勉強することができました。その中に移民の歴史も含まれています。すると、中国語で<<从日籍移民看冲绳传统文化的传承——时间是个浪漫派的画家, 记忆中留下的都是挥之不去的情结>>（移民から沖縄伝統文化の伝承を見る—時間はロマン派の画家。記憶に残っているのは立ち去ることのできない思い出ばかり）という文章を書き、SNSで発表しました。中国人の移民に対して華僑、華人という呼び方があり、彼らの多くは金持ちで、故郷へいっぱいお金を寄付して貢献した人々で、非常に尊敬されています。中国の伝統的な文化を保ちながら海外で活躍していると思われています。華僑、華人と日系人の境遇が似ているでしょうか。私はウチナーングチを少ししゃべったり、三線を弾いたり、島唄を歌ったり、琉球舞踊を踊ったりしている日系人の姿が本当に素晴らしいと感じ、感動しました。そこで、私も「移民の日」に参加し、初めて「島人の宝」という島唄を学びました。また、「歌の日」のコンサートも聞きに行きました。美しいメロディの溢れる島唄にいっぱい触れ合ったし、大好きな小野リサと思わず近距離で会えて嬉しいかぎりでした。



こういったような自発的な活動以外に琉球大学の野入先生の指導でアイデンティティ研修も数回行いました。これを通して、移民という身分の特別さを更に感じました。日本人より外国人っぽい、外国人より日本人っぽいといったようなきまざい立場であることに悩んでいる人が多いようです。中国では欧米へ移民した人の二世から「バナナ人」と形容する言葉があります。見た目は黄色

の肌ですが、中身は欧米文化のことを言います。私は移民ではないのに、故郷から離れて十数年が経ち、帰りたいですが、もう帰れない気持ちも持っています。これはどんなに苦しいことか自分だけがわかります。むしろまったく違う文化の外国へ行った二世、三世、四世の人は自分のアイデンティティについて若い時にどんなに悩んでいるかの方がい知ることができるのでしょうか。

エイサーであれ、平和学習であれ、どの世にいても、幸せな生活のためです。幸せというのには個人差がありますが、健康な心と体を持ち、安定な生活を送るのが基本でしょうか。人はどうやって故郷を離れ、移民まで至ったのかを考えれば、そのままで行くと、幸せな生活を過ごせないと分かってやっと移民する決意したはずです。移民後、どのような生活を送ってきたのか。振り返れば、自分がラッキーだったのか、後悔があったのかななどの疑問が出てくるのでしょうか。私も移民文化をふれあいながら、自分はどのようにこの一生を過ごせばいいのかを考え始めました。



琉球大学で専門知識を学べるのはもちろん私にとって重要ですが、これ以上もっと重要なことがあると思います。それは県費のメンバーと留学生生活をサポートしていただいた方々と知り合ったことです。別れが近づいてきますが、終わりは始まりです。皆さんの人生の舞台でのご活躍を心よりお祈りいたします。自分なりの人生を過ごしてください。



## ウチナーンチュの優しさ -沖繩の留学の感想-

許 哲競 (台湾)

名桜大学大学院

はじめに

沖繩に留学することになるきっかけ、自分がまだ大学生だった時にテンペーストという日本のドラマを観てから琉球という国やその地域の文化に興味を持つようになったからだと思います。自分は台湾の大学で日本語を専攻していました。そもそも日本の文化や言語などにすごく興味があって、テンペーストを通して、沖繩の文化は日本本土の文化と非常に区別があることに気づきました。日本本土の文化と違って、沖繩の文化はもっと中国文化に親しいと思います。大学四年生の時自分の学校の協定校の名桜大学に半年間の交換留学生になれるチャンスをもって、この機会をもって、沖繩の文化と日本語を勉強しようと思い、沖繩に参りました。最初は沖繩の気候にびっくりしました。何故ならば、沖繩の気候は全く台湾と一緒に、全然距離感を感じなくて、まるでまだ台湾にいるような気がしました。ただ沖繩の海が台湾より綺麗だと思いました。それに自分が空港で迷っているところを見たおばあさんが優しく声をかけました。異国への不安はその一瞬で全部解消されました。沖繩に来る前に日本行ったことは何回もあったが、日本人に、知らない人にこんなに優しく扱われたのは初めてでした。そして、舞台が名桜大学に移りました。初めて名桜大学に、名護に着いた時は正直いうと少しがっかりしました。名護の海がものすごく綺麗だったが、名桜大学は山の上であって、あまり便利じゃないことが困りました。しかしながら、学校が始まると次第に、たくさんの日本人の友達ができ、名護での生活も面白くなりました。しかも名桜大学では、琉球文化やうちなーぐ

ちや琉球の歴史など沖縄の伝統的な文化が学べる授業をたくさんやっているの  
で、自分は非常に興味を持っている分野で学びたいことが学べるなんて、これ  
以上の喜びことはないはずだと思っています。

半年の交換留学生の期間があつという間に過ぎました。沖縄にいる時間は本  
当に足りないなと思って、そのため、向こうの大学を卒業してから名桜大学の  
大学院に入るという考えが生まれました。名桜大学の教授に色々な助けをもらい  
ながら、ようやく名桜大学の研究生になれました。

### 大学院での生活

半年の研究生を終えて、やっと正式に大学院院生になりました。自分の指導  
教員に色々な助けを頂きました。それにウチナーンチュ子弟等留学生というプ  
ログラムに入らせていただいて、沖縄での生活費や学費をいただくことになっ  
て、心から誠に感謝しております。感謝しながら、自分が大学院での研究が続  
けるようになりました。

自分は大学院では日本人の中国語学習者の動機づけについて勉強しています。  
なぜこのテーマを研究しているのか、それは、中国人が沖縄を訪問することが  
多くなり、日本人が中国語を学ぶ必要性が高まっていて、地理的に中国と沖縄  
は近いことから貿易、観光などを通して双方間の交流が盛んになっている。こう  
いった背景から日本人の中国語習得意欲が高まっています。沖縄と台湾と中国  
との架け橋になる為に、沖縄の人に台湾や中国などの言語と文化を紹介する必  
要もあると思います。

### 県費生のプログラムと大学院以外の活動

沖縄県は私たち県費留学生のために色々なイベントや文化を学べる講座や旅  
行を行ってくださいました。それ以外、自分は学校が休み時も名護市内のボラ

ンティア活動に参加していました。

## 平和教育研修

慰霊の日に糸満にある平和祈念公園行ってきました。

そこで戦争で亡くなった人々を祈念するために黙祷もしました。その後県内の大学生と一緒に沖縄戦の歴史を勉強しました。

その沖縄戦の歴史を勉強しました。沖縄戦というのは太平洋戦争の中で一番酷くて、そのせいで亡くなった人数も多いです。この歴史を勉強することを通して、われわれ若者たちに戦争の残酷さや平和の重要性を理解させていただいた。沖縄戦の歴史を自分の国の人たち教えたいと思います。こんなに台湾の近い美しい島にこんな悲惨な過去あることをだれも忘れないはずです。

それから、自分の国の人たちに平和の重要性を伝えたいと思います。

## 伊江島の研修

伊江島の研修で、伊江島に住んでいる島民のみなさんの家に泊めてもらった。自分が泊めてもらった民泊のお母さんはすごく明るくて、優しいお母さんだと思う。その民泊のお母さんは建築の会社をやっているそうです。私たちは掃除したり、農家の仕事も手伝いしたりしました。その民家のお母さんにその島にある居酒屋も連れて行ってくれました。

## 今後の計画及び感想

県費生として沖縄で勉強することができて、本当に良かったと思います。財団や学校の先生または沖縄の県民たちに感謝しきれないことがたくさんあります。

このプログラムを通し、我々はもっと沖縄の文化と日本語がわかるようになりました。そして、沖縄の文化を学んだり、県民や県内の大学生たちとの交流をしたりしながら、自分の国の文化を検討することができます。

沖縄に来る台湾の観光客が以前よりどんどん増えて来て、もっと自分の国の人にこの島の文化やこの島の人々の心の温かさを伝えて行きたいと思います。

## 日本の留学生活

唐 彌奇（台湾）

名桜大学

名桜大学に入学するもう一年間になった。この一年間でいろいろなことを勉強した。いろいろな日本のことを認識した、あとたくさんの日本人と交流した。

私にとってとても充実の一年だと思う。沖縄に来る前、自分は東京の日本語学校で勉強していた。あの時日本の大学入るためにやることはただ日本語の勉強と留学試験の準備とアルバイトだけ、他の活動と日本人と交流のチャンスがあまりなかった。

名桜大学入った後こそ本当の留学生活の始まりだと思う。この一年間で授業以外やったことはたくさんある。例えば部活、ボランティア、旅行と県費留学生の定例会と活動に参加した。

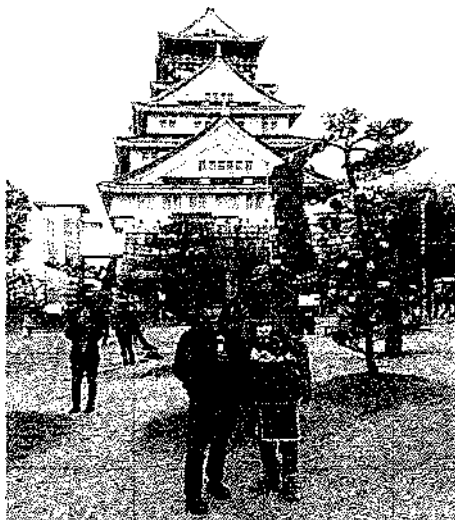
まずは部活である。自分は大学入る前もう部活に入るつもりだった。その理由は日本に来る前に自分はよく日本のドラマとアニメ見ていた。そしてドラマとアニメの内容を見ると部活は人を成長させて友達を作れる活動でとても楽しそう、特にスラムダンクを見た後深く影響された。



それで名桜大学入って剣道部に参加した、剣道部を選んだ理由は剣道は日本文化の特色があるので。剣道部に入った後たくさん剣道のルールと剣道の精神を勉強していた。それに試合も参加していた。剣道部に入ったことを通じてたくさん日本人の友達を作った。本当にドラマが描写したままで部活はとても楽しい活動である、そして部活も今大学生活の中で最も充実した不可欠な部分である。

ボランティアについて、この一年間二回目のボランティアしていた。ボランティアの内容は中国通訳である。自分ボランティア参加する理由は経験を積みたいからである。将来は日本の旅行会社に就職したいのでお客さんの疑問を解決することは大切だと思う。特に日本を訪れる観光客は中国の人は最も多い。だからこのボランティアはいい練習のチャンスだと思う。これからの仕事に役に立つ、その理由でボランティアに参加していた。それにいろいろな勉強になった。

あの二回のボランティア経験を通じて自分の能力の足りないところとか、ほかの不足の部分をしっかり認識した。なので、この二回のボランティアについてとても深く意義があると思う。



授業がない間、自分は他の県で旅行していた。県による文化も少し違う。この一年で私は三つの県に旅行していた。鹿児島、大阪、沖縄この三つの県にはいろいろな特色がある。特に鹿児島の旅は最も印象が深い。鹿児島の旅は剣道部の先輩の実家で泊まる。この旅で日本人の生活文化とか鹿児島の飲食とか体験していた。この旅を通じて日本の文化をもっと認識していた。普通はこんな日本人と交流

の機会があまりないから印象が深い。旅行でいろいろなこと発見した。

例えば同じ国だが県による方言がある。同じことでもいろいろな言い方があ  
る。あと飲食習慣とか生活も微妙に違う。特に沖縄と他の県とは違う点がたく  
さんある。旅行で日本のことをいろ  
いろ勉強になった。それに留学生の  
定例会と活動で沖縄のこといろい  
ろなことを学んでいた。例えば沖縄の  
歴史とか沖縄の文化とか、特にアイ



デンティティーのことを通じて世界中の沖縄移民のことをもっと知った。

あと自分の国と沖縄の歴史関係についていろいろな勉強になった。つまりこの一年はとても充実していたと思う。来年から県費留学生と違う、自分は来年も名桜大学の正式留学生である。なのでまだ三年間いる。留学生活はこれからだと思う、

この三年間は自分の目標を達成ためにもっと充実した生活過ごすと思う。

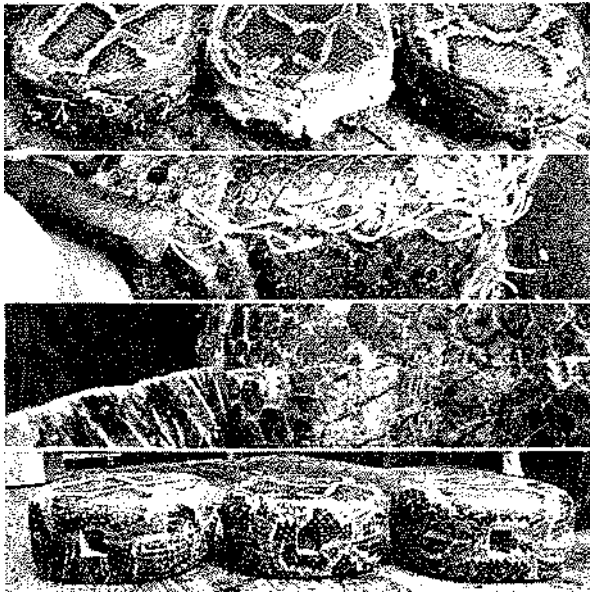
## 「ゆーらんまりとーん」：三線作り

神谷 ジョセフ 嘉益 (アメリカ)

沖縄県三線製作事業協同組合

伝統的な三線職人たちは手で三線を作ります。また、自然の材料を使います。だから、三線を作ったときに「ゆーらんまりとーん (良い生まれだね)」と言います。

1年間の間、私は那覇市安里の仲嶺三味線店で三線の作りや修理を研修しました。仲嶺幹先生は伝統的な三線職人です。伝統的な作り方は減っているので、仲嶺先生から学ぶ事がとても幸運です。



張替えの下準備

最初、私は三線作りの下準備を学びました：サンドペーパーで三線のソー (棹) を滑らかにする事、三線のチーガ (胴) から引き裂かれた蛇皮を外す事、チーガはクサビバリ (蛇皮の張り上げる 伝統的な過程) から外す事、チーガに人工皮を付着する事。

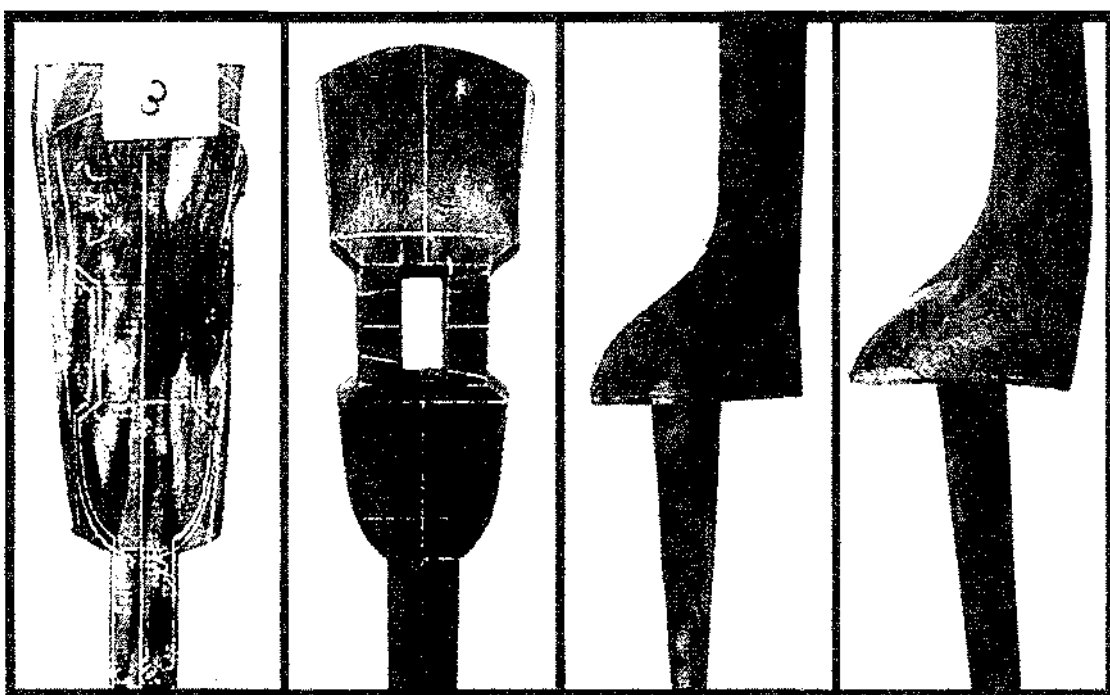
ハブガー (蛇皮) を張替えするとき、私は下準備を助けました。伝統的な過程はとっても複雑です。例えば、ハブガーに縫い付けたカシガーと言う布があります。仲嶺先生が蛇皮を貼り付けたら、私はカシガーを外しました。そして、縫製の糸や余分なハブガーを切りました。ハブガーの張替えは人気のある注文なので、毎月これを何度もやりました。

ハブガー (蛇皮) を張り上げる事には、2つのやり方があります：クサビバリ (蛇皮の過程)、ジャッキバリ (人工皮の過程)。私はクサビバリがまだ出



来ないけど、ジャッキバリを覚えました。ロスアンゼルスで三線を修理する事にとって、これはとっても有用なスキルと思います。

ブーアティ（分当て／三線の組立する事）も有用なスキルと思います。この過程は三線の組み立てする事を含みます：ソー（棹）やチーガ（胴）の合わせる事、ムディ／カラクイ（チューニングペグ／のり）の調整する事、チル（絃）やティーガー（手掛け／胴巻き）の取り付ける事。

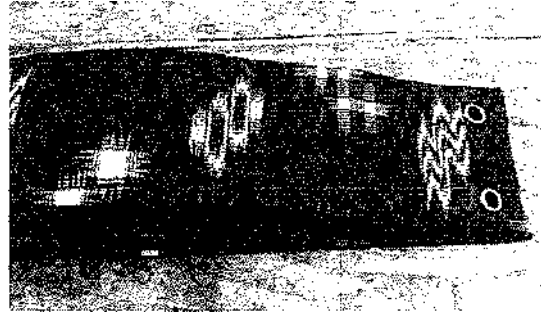
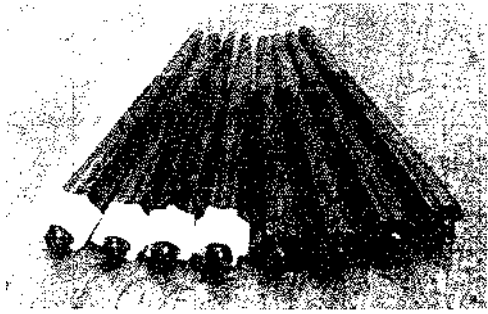


ソー（棹）を削る事、前後を比べる ※このソーは自分の作った物じゃないです

少しずつ自分の三線を作りました。私は工芸の体験があまりないから、多くの間違いをしました。自信は時々悪くなったけど、仲嶺先生のお陰様で、2丁の三線を作りました。

ソー（棹）は三線の1番大事な部分なので、作り方はとっても細かいです。伝統的な職人たちはソーを削る事に機械を使いません。鑿、ヤスリ、ナイフで木材を徐々に削ります。材料はモクマオウ科の木材です。

ソー（棹）の後、私は2セットのムディ（チューニングペグ／のり）を作りました。ソーを削るように鑿やヤスリを使いました。材料にクルチ（黒木）を使ったから、本当に緊張しました。自分のデザインを作ることが許されていたので、だんだん心配しなくなりました。

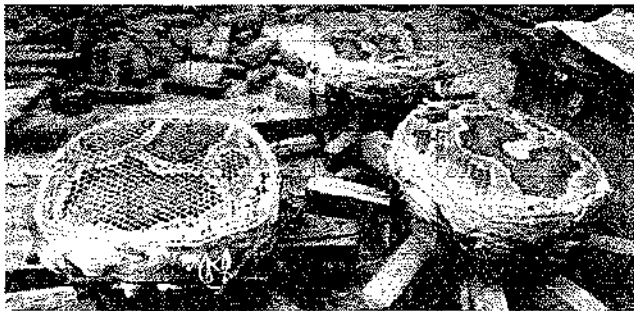


オリジナルのムディ（チューニングペグ） オリジナルのティーガー（胴巻き）、手縫い

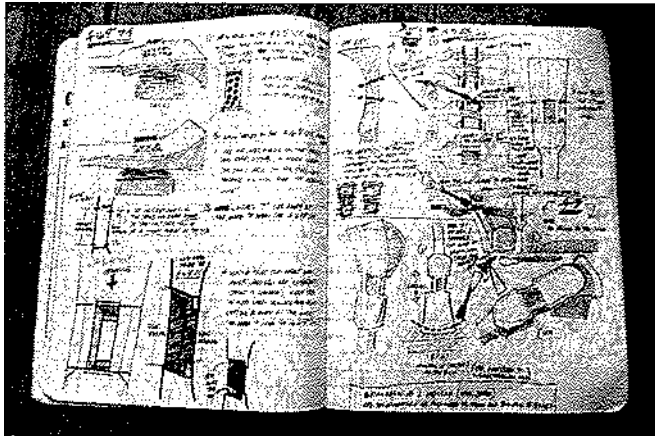
これを書いている時点では、私はまだ2丁の三線を作っています。2本のソー、2セットのムディ、1つのティーガー（手掛け／胴巻き）がもう出来ました。修了式まで、2つのウトウガニ（歌口）やもう1つのティーガーを作って、三線の全体を組み立てるつもりです。帰る前に時間があれば、自分のチルドゥムイ（糸掛）も作りたいです。

1年間の後、私は偉大な職人にならなかったけど、私の三線の知識が強化されました。私はアメリカで三線を広める方法を考えています。自国に帰るとき、ロスアンゼルス沖縄県人会（北米沖縄県人会）で色々なイベントを計画したいです。また、修理サービスやイベントのために仲嶺先生や他の職人をアメリカに招待したいです。

仲嶺先生や三線組合の皆さんのお陰様で、私はこの研修が出来ました。本当にお世話になりました。



①仲嶺幹先生 ②クサビバリ、蛇皮の張り上げる過程 ③ジャッキバリ、人工皮の張り上げる過程



① 私の三線作り方のノート ②チルダマイ（ムドイに絛を巻きつけところ）、前後を比べる ※右のソーは自分の作った物じゃないです

### 他の活動



クルチ（黒木）の杜（写真：平田よこ）



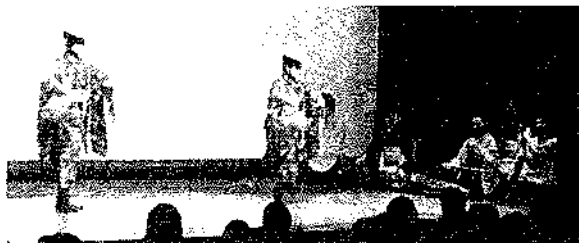
仲嶺先生や先生の子供たち

ほぼ毎月、私は仲嶺先生と一緒に「クルチ（黒木）の杜」と言うプロジェクトに参加しました。高品質の三線はクルチでソー（棹）を作るけど、クルチは希少で高価な材料です。2012年、宮沢和史さんや平田大一さんは三線組合と一緒にこのプロジェクトを作成しました。読谷村の座喜味城のとなりで新しいクルチを植えて、毎月に雑草を切ります。150年の後、1本の木から2丁の三線だけを作る事が出来ます！



照喜名朝一先生や2016年 琉球古典音楽の新人賞の生徒たち、与儀公園

沖縄に来る前、琉球古典音楽の新人賞を取ることを計画しませんでした。ですけど、沖縄の三線の先生と先輩たちは私を奨励しました。しかも、私は沖縄に1年間住んでいますので、今年はちょうどいい機会です。最も貴重な経験は照喜名朝一先生から学んでいました。先生は人間国宝ですが、とても謙虚な人です。また、三線や琉球古典音楽だけじゃなくて、照喜名先生は沖縄の将来について深く気遣います。私は照喜名先生の生徒であることを誇りに思います！



色々な三線ライブに参加しました。

ハイライト：

- ①平和通り、クリスマス・チャリティー・ライブ  
(¥13673を集まりました)
- ②ラジオ沖縄、お正月の番組
- ③総合結婚式場ニュー三和の合同生年祝
- ④沖縄県立博物館、日経のスペシャル・ステージ

## 沖縄の親戚

三線の勉強に加えて、私は沖縄に住んでいる親戚と繋がりがたかったです。神谷祖父母もう亡くなったから、孫やひ孫たちは沖縄のリンクを持っていません。お父さん、叔母さんや叔父さんたちは長年にわたって沖縄に住んでいる親戚と連絡していませんので、私は親戚に会うチャンスがないと心配していました。



神谷の親戚、シーミー、玉城村（写真：比嘉千穂）



幸いにも、連絡ができました！1年間の間、私は親戚と一緒に色々な活動をしました：シーミー、旧盆、お正月、誕生日のパーティー、など。

私は未来の世代のための繋がりを作りたいです。今、アメリカの家族や沖縄の親戚と一緒にアイデアを考えています。



①瑞慶覧の親戚、お正月パーティー、那覇市 ②久場の親戚、アメリカから叔母さんやお母さん、世界ウチナーンチュ大会 ③神谷の旧盆、玉城村

## 沖縄で三線作り

ゲスリング マイヤ ダナオ（アメリカ）

沖縄県三線製作事業協同組合

7月6日に、ひいおじいさんの一周忌のために私の沖縄親戚は集まりました。私は子どものときからほとんど皆に会いましたが、これは私が私の祖母の家族と深い会話を持つことができたのはほとんど初めてでした。前に、個人として人々を知るとは困難でした。すべての会話が同じでした。「こんにちは、お元気？これは好き？食べてね。」です。けれども、あの日、母としての子供についての話を聞いたし、糸瓜の成長について学びましたし、私の叔母の兄も照喜名朝一会で三線を研究することを発見しました。だから、それは非常に良い経験でした。



ウチナーンチュ子弟等留学生としての私の一年間に、私には多くの同様の経験を持っていました。アメリカで日本語を勉強しましたが、使用するにはあまりにも内気でした。しかし、沖縄で生活しているなら、日本語を使わなければなりません。慣れたら、自分の研修の内外で関係を構築することができました。私はこれが子弟等留学生の最も重要な結果だと思います。これらの関係を通じて、私は沖縄と三線作りについて学び続けることができます。沖縄とアメリカの関係を促進することができます。

~~~~~

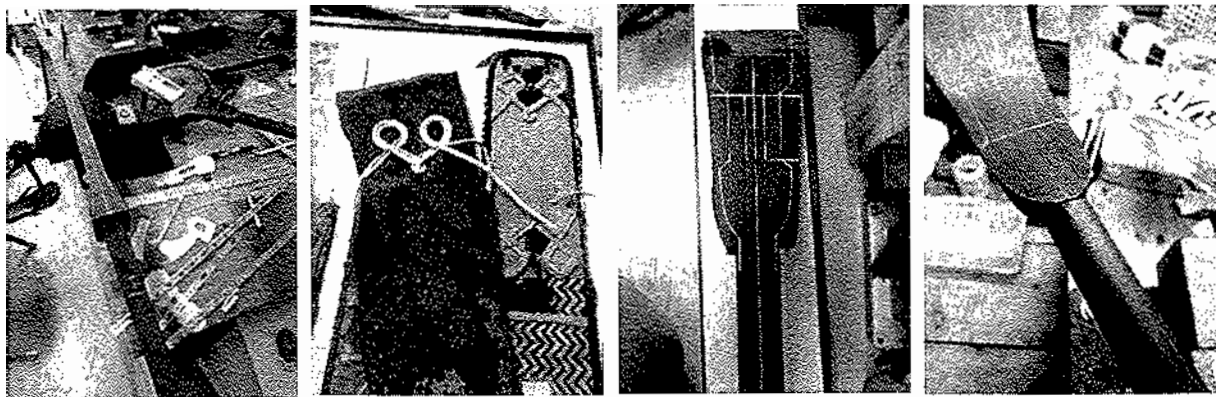


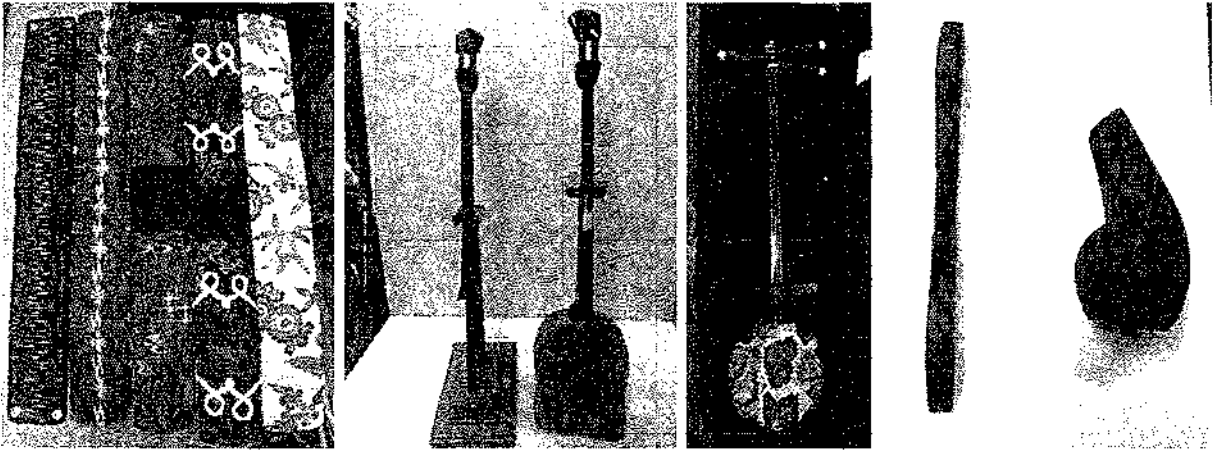
私の研修では、上原正男先生の三線工房いーばるで三線作りと修理を勉強しました。三線は3つ最初から作っていました。一つは人工皮、あと二つは蛇皮です。初めての時、道具の使い方などが全然分かりませんでした。私の先生はとても忍耐強かったので、今少し自信を持っています。



自分と友達と顧客のために5-6つのティーガを作っていました。私は縫いの経験があんまりないのでティーガを手作りするのは難しかったですが、デザインは自由ですのでとても楽しいと思っています。

黒木の爪と小馬も作りました。アメリカで、あれみたいな小物と修理が一番大事な事だったと思います。本当に三線を買いたい人は沖縄に行きますが、アメリカで調整やメンテナンスなどあんまりできないので、今の場合は大変です。





私たちが参加できた特別なものは「くるみの杜 100年プロジェクト」と言うものです。座喜味城の後ろに若い黒木があり、いつかは三線を作るのに使うことができます。

私たちは草刈りをしたり、木を植えたり、地面をきれいにしました。

今、沖縄本島には黒木で三線を作れる木はもうありませんが、いつかだれか、沖縄の黒木でもう一度三線を作ることができたらうれしいです。

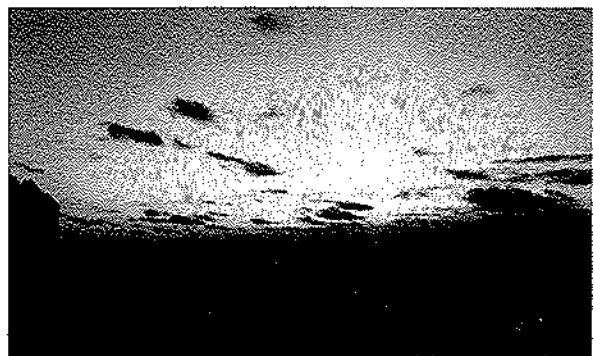






三線作り研修以外、三線を弾くこともたくさんの勉強できました。五月ぐらいに、安富祖流照喜名朝一会に入れて、8月に琉球新報の琉球古典芸能コンクールを取りました。照喜名朝一先生と照喜名朝國先生と安富祖流の先輩たちと自分の上原先生から学べたことは大きな特権でした。県立博物館で「移民の子弟に継承される琉球芸能と肝心」の演奏会やラジオ沖縄や平和通りなど演奏のチャンスを持てたことは幸運でした。

一年間の中で、私は他にも特別な機会がたくさんありました。沖縄の最高の青年会の沖縄市のお盆の演奏を見たし、私にとって最初のウチナーンチュ大会に参加し、元旦に南城市知念の海で日の出を見ました。SAELU 学院で日本語を勉強し、日本語能力試験に合格しました。私は兵庫県に初めて行ったし、那覇まつりの綱引きの勝利側にいたし、知名定男さんと古謝美佐子さんに会いました。この一年間は私にとって本当にラッキーだったと思っています。



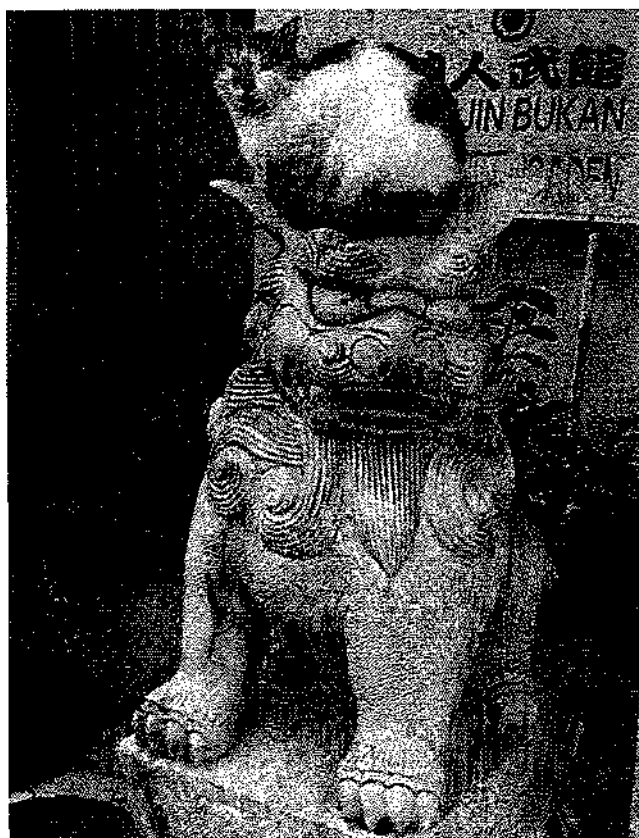
~~~~

私たちが沖縄に来たとき、新聞とラジオの記者たちはなぜウチナーンチュ子弟等留学生に申込みしたのかと尋ねました。私は「Why not?」と言いたかったのです。

私は 23 歳でした。旅行したいと思っていました。なぜいけないの？しかし、それは非常に良い答えではありません。

代わりに、なぜ私が自分で沖縄に残ることを決めたかを教えてあげます。

私は神谷ジョセフと三線製作組合と協力して、アメリカへの蛇皮三線の輸入のための簡単なプロセスを作りたいと思っています。アメリカですぐに作れる三線小物、爪やティーガーやカラクイなど、作るためにより多くの経験をしたいです。沖縄古典音楽の勉強を続けていきたいです。笛の新人賞を受けて、胡弓を始めたいです。次の日本語能力試験を受けたいです。私の小さいとこたちが育つのを見たいです。私が決して会ったことのない世界中の人は、まだペルー、フランス、ブラジルにいるならば、友情を続け、音楽を演奏したいと思っています。次のウチナーンチュ子弟等留学生に会いたいです。



平成28年度 ウチナーンチュ子弟等留学生 修了報告書

沖縄県

<受託者>

公益財団法人 沖縄県国際交流・人材育成財団

